

ネコハエトリの幼体発育と卵のう産出

宮 下 和 喜*

Nymphal development and egg sac production of

Carrhotus xanthogramma LATREILLE

Kazuyoshi MIYASHITA

I. はじめに

前川・池田(1994)は、卵のうより分散しはじめたネコハエトリの幼体(2令)を自然条件に近い室内で飼育し、それらの成長と発育を詳しく調べた結果を報告しているが、飼育が成体になる前に打ち切られてしまっている。

私も同じような飼育を行ない、成体になるまでに要した期間や脱皮回数を調べてみたのと同時に、メス成体の卵のう産出についても調べてみたので、ここにそれらの結果の概要を報告する。

II. 材料と方法

1994年の5月15日に千葉県我孫子市の中央学院高等学校付近で採集したメスが5月31日に管ビンの中で産卵し、その卵が6月8日にふ化して6月28日～7月3日に38匹の2令幼体がビン中に分散した。これらの幼体を7月4日に直径25mm×高さ55mmのガラスビンに1匹ずつ入れ、フタを下にして置いて飼育をはじめた。飼育ビンは4～5令以後は直径35mm×高さ75mmのものに代えた。産卵調査のためのメス成体も、同様に直径35mm×高さ75mmのガラスビンで飼育した。

飼育場所は暖冷房のない普通の室の日光が直接当らぬ所である。餌は近くの水田やその畦畔を捕虫網ですくって得られたカラバエやハモグリバエを含む雑多な小型なハエの仲間、4令以後はショウジョウバエを含むもう少し大型なハエの仲間や小型のヒラタアブであった。餌はその時の摂食状況によって2～5匹与え、与えた間隔は3令期までは1～2日おき、それ以後では2～3日おきであった。ただし、冬期間中(12月～翌年2月)は、日中の気温が15℃以上に上って飼育個体が巣網の外を歩き回っていた場合にだけ餌を与えた。越冬期間中でも彼らが巣網の外へ出ていたときには、餌を与えるとそれを捕食する個体はかなり多かったからである。

メスの卵のう産出の調査では、5月15～23日に採集した個体を用いた。この調査での給餌の条件は、上記の幼体の中令以後の期間のそれとほぼ同じであった。ただし、メスは産卵すると、卵のふ化後のかなりの期間あるいは2令幼体の分散時まで巣網の中に留まっていることが多かったので、この期間の給餌は省略した。

*〒270-11 千葉県我孫子市湖北台 10-17-19

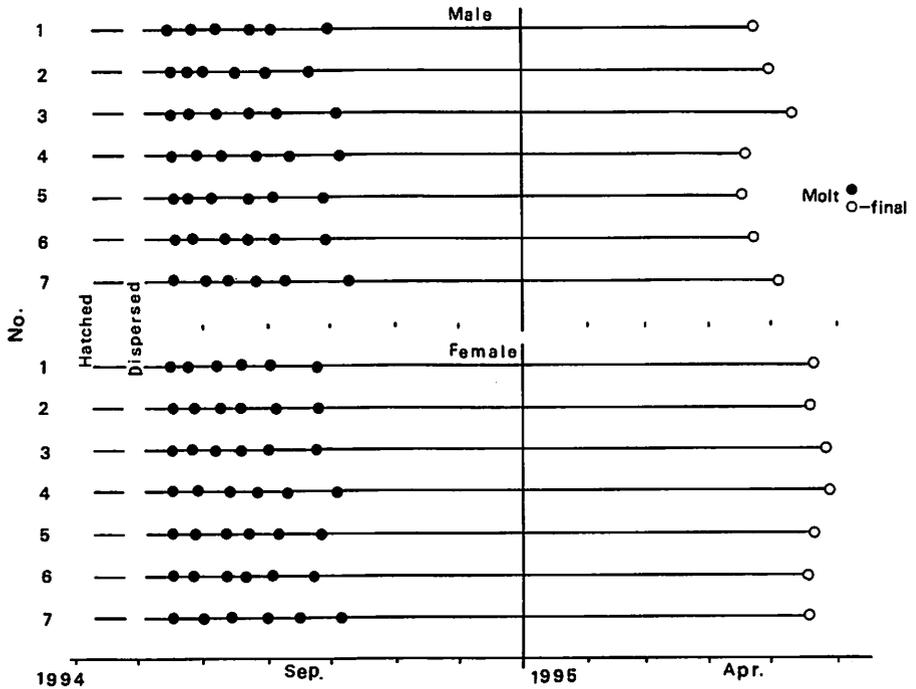


図1. ネコハエトリの2令幼体の发育経過
(Developmental processes of *Carrhotus xanthogramma* 2nd instar nymphs)

III. 結果と考察

1) 幼体の发育

2令幼体の飼育結果は図1に示したとおりである。この図を見れば分かるように、このクモの幼体は、親の巣網より分散した後はオス・メスとも9月から10月の初め頃までに6回の脱皮をして8令の亜成体となって越冬した後、翌年の4月から5月にかけて最後の脱皮をして成体になっている。また、オスはメスより若干早く成体になる傾向がみられたが、脱皮回数はオス・メスとも全く同じであった。吉田(1979)は、福岡県のミカン園での頻繁な野外調査を実施し、このクモは5月下旬頃より卵を産みはじめ、これより生じた2令幼体が秋までに5~6回脱皮をして越冬し、翌年3月中旬頃より最後の脱皮をして成体になるので、年1回の発生であると結論している。前川・池田(1994)も、神奈川県での室内飼育結果から、このクモは卵のう内での脱皮を加えると合計8回の脱皮をして成体になると報告している。これら2つの報告と本調査の結果とは大変よく一致している。したがって、このクモは千葉県我孫子市周辺においても、神奈川県や福岡県とほぼ同じく年1回発生の生活史を持っているといえる。

2) メスの産卵

図2に5匹のメスの卵のうの産出経過を調べた結果を示した。図中のNo.3の個体は2回卵のうを産出したが受精卵を産まなかったため、多分交尾前に採集されたのだと思われる。残りの4個体は、いずれもかなり長い間隔をおいて、5月の終わりから8月の初めにかけて2~3回卵のうを産出した。図中にはそれぞれの卵のうより出てきた2令幼体の数および卵のうの中に残されていた不ふ化卵数を示してある。いま、No.3の個体を除外し、ま

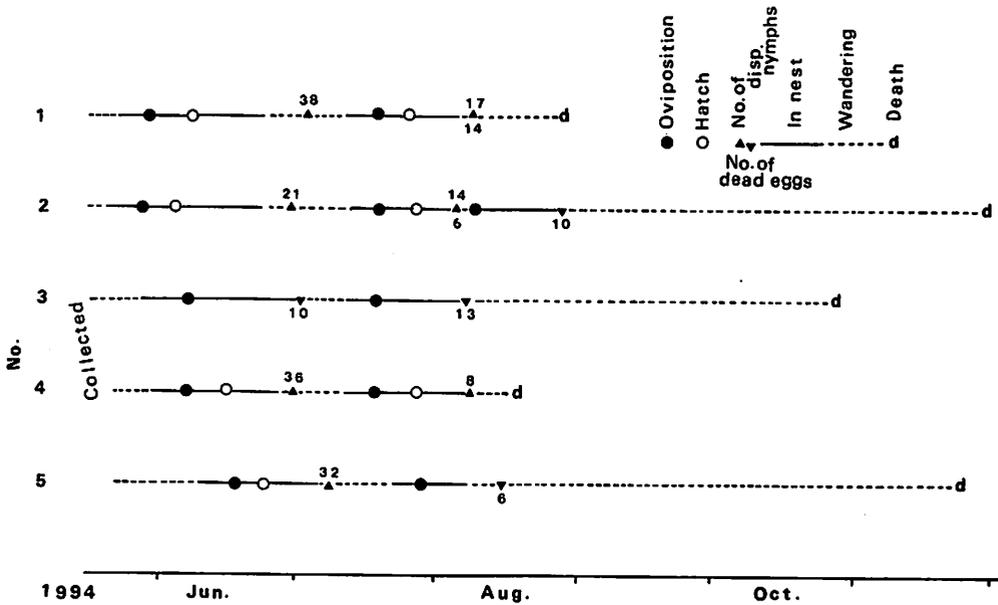


図2. ネコハエトリ成体メスの卵のう産出経過
(Egg sac production processes of 5 *Carrhotus xanthogramma* females)

た不ふ化卵を除外して健全な卵数の平均を第1回目と第2回目の産卵について計算してみると、それぞれ 31.8 ± 7.6 と、 9.8 ± 7.5 となった。

また、第2回目の産卵から不ふ化卵が生ずるようになり、第3回目の産卵ではふ化した卵は無かった。ことによると、自然条件下では再交尾が行われていて、不ふ化卵はあまり生じていないのかも知れないが、本調査では再交尾をさせなかったため、その通りかどうかは不明である。吉田 (1979) は、メスは5月～8月の間に3回卵のうを産出すると想定し、第1回目の産卵では平均40卵ほどを産出するが、第2回目から第3回目にかけて産卵数が減少傾向をたどり、1年を通じてそれらを平均すると1卵のう当りの平均卵数は 36.2 ± 3.4 になった、と述べている。この数値は、上記の第1回目の産卵の平均卵数にかなり近い値である。

このように、このクモは自然条件下では5月から8月にかけて第1回目の20～40卵と、第2回目の10～20卵の入った卵のうを少なくとも2回は産出するものと思われるので、秋にはいろいろな令期にある幼体が混在することが予想される。しかし浅間 (1994) は、千葉県で行ったワラ巻き採集によるクモ類の越冬個体数調査の結果で、このクモの越冬個体は大部分が亜成体でそれより若い個体はそれほど多くなかったことを報告している。そうすると、越冬個体群の大部分が亜成体であるためには、第1回目の産卵より生じた幼体が越冬個体群の主要な構成員になっているか、あるいは早い時期に産まれた個体は越冬のために秋には亜成体で発育を止め、遅い時期に産まれた個体は出来るだけ亜成体に近づくよう発育が早まるという機構が働いているか、のいずれかであろう。後者の機構が働いていると予想された例としてはウツキコモリグモの報告 (MIYASHITA, 1969) があるが、このネコハエトリについてはもう少し詳しい調査をしなければ、本当のことは分からない。

IV. 要約

ネコハエトリの幼体は、卵のうちでの脱皮を加えるとオス・メスとも7回脱皮した亜成体で越冬し、翌年の4月から5月にかけて最後の脱皮をして成体になった。成体になる時期は、オスの方がメスより若干早かった。メス成体は、5月から8月にかけて2～3回卵のうを産出した。産卵数は、第1回目が最も多く、平均 31.8 ± 7.6 であったが、それ以後ではこれより減少する傾向を示した。第3回目に産出された卵のうの卵は、ふ化しなかった。

V. 謝辞

このクモの生活史について池田博明さんにいろいろ教えていただいた。ここに厚くお礼を申し上げる。

VI. 引用文献

- 浅間 茂, 1994. 生態圏及び周辺のクモ類. 千葉県中央博自然研究報告特別号 1 : 245-258.
前川隆敏・池田博明, 1994. 飼育条件下でのネコハエトリの幼体の生長と発育. *Kishidaia*, (66) : 27-33.
MIYASHITA.K, 1969. Seasonal change of population density and some characteristics of overwintering nymphs of *Lycosa T-insignita* BôS.et.Str. *Appl.Ent.Zool.*4(1):1-8.
吉田裕之, 1979. ネコハエトリの生活環. *Atypus*, (75):26-27.

飼育下のハイイロゴケグモの、脱皮に関する報告

加藤 むつみ

95年12月16日に、横浜シンボルタワー公園において採集した、1個体のハイイロゴケグモの垂成体を持ち帰り飼育したところ、96年1月20日夜に脱皮し成体になった。その脱皮で観察されたことについて報告する。

飼育方法

飼育には、縦3cm、横4cm、高さ10cmのいつものタッパ型容器を用い、簡易加温器で、だいたい16~19℃位に保った。エサには、ガガンボやハエを与えた。

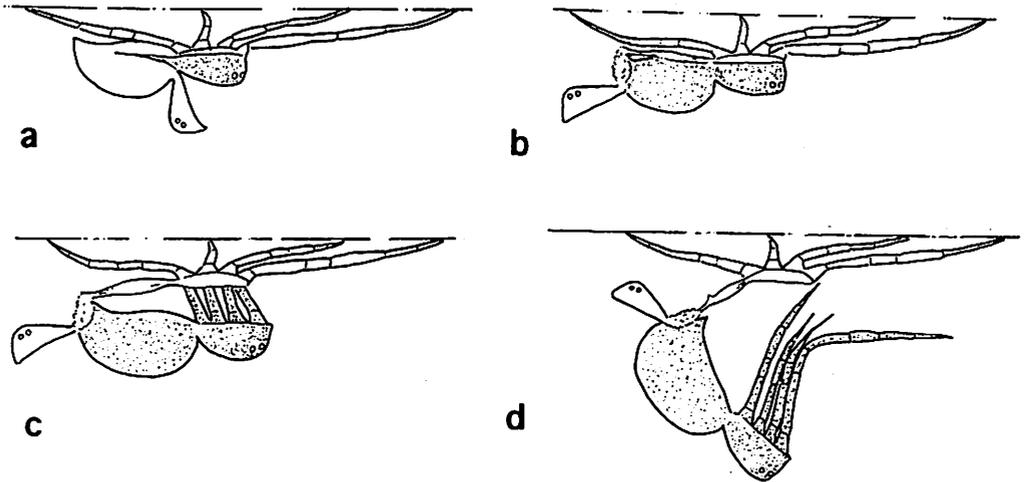
結果と考察

このクモの脱皮の兆候は、摂食の中断に続く体色の変化で見つけられる。とくに足の部分を明りに透かして見ると、緑黒く見え、普通の照明下の色と違うため見分けられる。この脱皮期以外では透かして見ても、普通に見てもそれほど差がない。以上の特徴に加えて、普段と違う足を伸ばすような姿勢をとるのが観察されてから、2時間以内に脱皮に至った。

脱皮は、まず足を目いっぱい開くように伸ばした姿勢で始まる。頭胸部が割れ、剥がれる瞬間は見損なったが、後の過程は図に示した。腹部の脱皮の仕方は、同じヒメグモの仲間のハンゲツオスナキグモの場合とほとんど同じであったが、それに続く足の脱皮は、糸に固定された足が水平に開げられて伸ばされているため、脱皮殻より足を引抜く時、根元の部分が狭く絞り、かなり無理をして足を引抜く事になった。特に一番長く、最後まで引き抜けない前肢は、出てきた後もしばらくは、『くの字型』に曲っていた。しかし、全過程に要した時間は10分前後で比較的短い事より、病的な異常脱皮とは考えにくい。

ゴケグモの多くは、成長期の脱皮の失敗により死ぬ(吉倉)という記述があるが、この無理をしているように見える脱皮姿勢に原因があるのだろうか。同じく脱皮する生き物であるカブトガニの場合、脱皮の失敗の多くは、その脱皮の前の食欲のある活動的な時期に、彼等の代謝スピードに合せた適切な給餌活動ができなかった事が、原因となる。ゴケグモの場合も、増えすぎてエサ不足になった結果とも考えられるが。

ところで今回観察された注目すべき事は、このクモの場合、足が抜けきった時に糸イボはすでに脱皮殻より抜けていたが、糸イボより後ろのわずかの部分で、体が脱皮殻につながっていた事である。脱皮殻よりの最後の部分の離脱は、足を胸のところに折りたたみ、十分に体を膨らませ固めた後、自由に動くようになった足を使ってヒップをひねるように行われた。前回、ハンゲツオスナキグモの脱皮の観察の時に、足が脱皮する時期には、腹部の多くの部分が脱皮殻に覆われている事はないと報告した。しかし、足より先に完全に腹部が脱皮殻より抜けてしまい、足が抜けた時にクモの体を支える物が、脱皮殻から糸イボへの糸だけと考えると、クモが足や体を膨らませ固める時期は、非常に不安定な状況下に置かれる事になる。ちょっとでも風が吹けば、体が回転してしまったり、何かに打っ



脱皮過程の図 : a. 一瞬のうちに、頭胸部が剥がれる。 b. 一瞬のうちに腹部腹面が剥がれ、続けて腹部背面が十秒位かけて剥がれる。 c. 広がった足の脱皮殻より足を引抜きはじめる。足を抜く時、脱皮殻が下に引張られるため、狭い出口がさらに締まる。足は、真下というより、下斜め前方に向かって引く。 d. 足が脱皮した直後、無理して引抜いた前足は『くの字』に曲り、糸イボが剥がれた腹部の脱皮殻は、糸イボより後方の部分でクモの体に接着している。糸イボより糸が出ていたかは未確認。

けられたりする事にもなり、自由の利かないひ弱な体は大変な危険にさらされる。ところが、このクモのように、わずかな部分でも腹部が脱皮殻に固定されていると、安全に足や体を膨らませ固めることができる事になる。

最後に、AUDREY HEERES は、ハイイログケグモの雄の成体の寿命は未交接ほど短命で僅か2週間、交接雄でも5週間しかなく、大変『busy』と記述している。しかし、この雄は未交接にもかかわらず、96年4月4日まで、成体になって10週間以上生存したし、成長スピード的にも行動的にも、他のヒメグモ類より『busy』というようにも思えなかった。但し、この10週間中に全く、エサを捕らないという性質においては、同じであった。

謝辞

AUDREY HEERESの文よりの引用は、池田博明氏の試訳を参考にさせていただきました。いつもの事ながら大変感謝しています。

引用文献

- 加藤むつみ；飼育下のハンゲツオスナキグモの、脱皮に関する観察報告；*Kishidaia* (71), p.9-11
 吉倉真；1987, クモの生物学・学会出版センター・P.211
 AUDREY HEERES；1993, *African wildlife*, 47(1)

クモ観察会指導マニュアル

池田博明

各地の自然観察会でクモがとりあげられることがあります。私もいくつかの自然観察会で指導する機会を持ちました。

初心者や子供たちにどうしたら興味を持ってもらえるでしょうか。試行錯誤であれこれ試みているうちに、いくつか指導のポイントが見えてきたような気がします。観察会の主役は参加者です。参加者に喜んで帰ってもらうためには、どのような指導がよいでしょうか。講師はどのような準備をすればよいでしょうか。2時間の観察会の進め方の例を紹介してみたいと思います。

本文をつづるに当り、観察会で指導する機会を与えて下さった神奈川県足柄上郡松田町子ども館・神奈川県座間市公民館・群馬県桐生市自然観察の森・東京都立水元公園の方々、各観察会に参加して下さったみなさん、ご助言下さった東京クモゼミのみなさんに感謝します。

1. 観察会を始める前に

1) 準備するもの

- ①フィルムケース クモを採るのに必要。参加者数の2倍程度
- ②自然観察ビンゴ・カード（後述）と鉛筆 参加者数
- ③問題を書いた画用紙（後述） 1部
- ④キャンデー各種 参加者数の3倍程度の個数
- ⑤携帯用ホワイトボードと筆記具 説明するときのメモ用
- ⑥クモ箱 クモを生きたまま一時保管する箱。前川隆敏氏考案のホンチ箱が最良
（『Atypus』98/99号に作製法が掲載されている）

2) 準備すること

- ①できれば観察会の現地を下見し、行動範囲を決めておきます。徘徊性の種で観察会当日に発見できない可能性のあるクモは採集して、クモ箱に入れておくと、採取できなかったときに参加者にいろんな種類が見せられます。
- ②手持ちの図鑑、捕虫網またはコウモリ傘（ピーティング用）

2. 観察会の指導法と展開法

1) 話は子供に向かってする

子供が理解できるように話せば大人も楽しめるし、理解します。これはクモに限らず、自然観察会を指導するときの鉄則です。

2) 自然観察ビンゴ・カードを配布し、ビンゴのやり方を説明する

「ビンゴをしながら、観察会をします。カードに好きな順番に1から9までの数字を書き入れてください」。自然観察会でビンゴを利用するアイデアは平塚市博物館の浜口

哲一氏のもので、全国に普及しています。使いかたは各自の工夫で変化しています。

「では、第1問目をやってみましょう。1と書いたところにこれから出す問題の正解をひとつ選んで下さい」（第1問は後記します。みんなが書けたことを確認し、どの答が多いかを手をあげさせて確認します）。「では正解を言います。正解は〇〇。当たった人は自分の答に大きな丸をつけましょう。ちがった人はバツ！ビンゴは〇が並んでも×が並んでもかまいません」（こうすると×ねらいで来る子供もいて、楽しくなります）。「では、後の8問は外で行います。採集道具を持って外へ行きましょう」（以下、外で臨機応変に問題を出しながら観察します。もちろん観察事項のすべてを問題にするわけではありません。ビンゴができた子供にはビンゴができる度に、キャンデーを1個あげます）。

3) 専門用語はできるだけ使用しない

適切な言い換えをすれば専門用語をほとんど使用する必要がありません。クモの網や体に関する用語は多いのですが、これらを初心者の観察者に覚えさせる必要はまったくありません。いつか、クモに親んでもらえば、後は楽しさだけを思い出に残して、忘れてしまっていていいのですから。

4) あいまいな言い方を避ける

あいまいなことを言う大人を、子供は信頼しません。できるだけ断定的にもの言うことです。これは質問されたときも同様です。相手が初心者であればあるほど、「Aかもしれないし、Bかもしれない。ことによるとCの可能性もある」といったあいまいな言い方をしてはいけません。あいまいな答えをすると、あなたは信頼されなくなります。「これはAだと思います」と断言すればよいのです。「経験を積まないと分かりません」という無責任ないい方もよくありません。質問者が求めているのは答そのものではありません。ものの見方の基準です。明解に示さないと基準の役割をしません。まだ分かっていないことは「それはまだ謎として残っています」と言います。

5) 問題の例

これらの問題の選択肢はあらかじめ画用紙に図にして描いておきます。状況や出現したクモに応じて使います。しかし、最初の3問は、この順番がいいと思います。

[第1問] (出発前に) 〇〇〇にはクモは何種類、生息しているのでしょうか？

ア) 150種 イ) 400種 ウ) 1200種

解説: 〇〇〇がその現地なら正解はア, 〇〇県ならイ, 日本ならウ, 世界では約4万種。

[第2問] (最初のクモを採る前に) クモの足は何本か知っていますか？ 8本ですね。

では、その足はどう付いているのでしょうか。

ア) すべて頭胸部 イ) 3対は頭胸部・1対は腹部
ウ) 2対は頭胸部・2対は腹部

解説: 正解はア。実際にクモを採集して観察すれば一目瞭然。大切なことは実物を観察してから確認することと、必ず正解を言うことです。このことは以降の問題のときも同様です。正解は、はっきり言う必要があります。実物を見たのだから全員正しく判断できると思ってはいけません。見たからこそ間違えることもあります。実物を観察しても、観察が不十分だったり、思い込みのために正しく判断しない人がけっこう沢山います。

あらかじめ正解の予想をして、そのクモを見るときに観察項目を限ってやれば、参加者のみなさんは普通よりよく観察します。

昆虫の足も実は胸部から出ています。もともとこれら節足動物の足は腹にもあったのです。エビには腹脚がありますね。クモや昆虫は腹部の足を無くしました。けれども、触角や口器ももとは足なんです。足の数はだんだん減っているんですね。

[第3問] (コモリグモを捕獲したら行う。卵のうを付着しているクモや子供をおぶっているクモだったら、みんなに見せないうちに) このクモは「子守グモ」という名前です。ではどんな子守をするのでしょうか？

ア) 子供を背中におぶる イ) ミルクを与える ウ) 卵のうを運ぶ

解説：正解はアとウ。コガネヒメグモは吐き戻し給餌を行います。吐き戻したものをスパイダーミルクといいます。

[第4問] (クサグモかコクサグモの網で) このクモの網は粘球がなく、ねばついてきませんね。このクモはどんな虫の狩りかたをするのでしょうか？

ア) 風呂敷方式 イ) かみつき方式 ウ) 捕り縄方式

解説：クサグモやコクサグモはウ。ヒメグモだったらア。ハエトリグモならイ。

[第5問] (ヒメグモの網で) 前問と同じ。正解はア。

[第6問] (水平円網があったら、みんなを近くに寄せないで) ここに〇〇グモの水平円網があります。ところで、この網の中心はどうなっているのでしょうか。

ア) 放射状 イ) 丸い穴があいている ウ) 閉じている

解説：正解はイ。最初はウのように閉じているのですが、クモは最後に中心に戻ってくると閉じたところをかみ破って穴を開けてしまうのです。なぜそんなことをして網をたるませるのでしょうか。不思議ですね。

アは無こしき、イは開こしき、ウは閉こしきの図を書いておけば、出現するクモに応じて使用できますが、一般に水平円網の方が大きいし、例外も少ないので、観察会むきです。

[第7問] (オスの成体が採れたら) ちょうどオスが採れました。さて、オスにはある特徴があります。オスの特徴はどこにあるのでしょうか。

ア) 触肢の先端 イ) 腹部の先端 ウ) 第1脚の途中

解説：正解はア。成体オスは触肢の先端に交尾器が突き、これに精子を入れておきます。そしてメスに渡すのです。実際に発達した触肢を観察させます。

[第8問] (ハエトリグモを捕らえたら) ハエトリグモの目で特別に大きくなっているのは、どの目でしょうか

ア) 前中眼 イ) 前側眼 ウ) 後中眼

解説：正解はア。実際に顔面を観察させます。

[第9問] (カバキコマチグモの住居を見つけたら、開きながら) このクモにはとても変わった習性があります。それは何でしょうか？

ア) 子どもが大きくなるまで集団生活をする

イ) 母親の口のなかで卵が育つ

ウ) 母グモが自分を子グモに食べさせる

解説：正解はウ。メガネヤチグモだったらア。イの習性のクモはいない。カバキコマ

チグモに咬まれないように注意しておきましょう。

[第10問] (クモの雌雄がいるか、あるいはアズマキシダグモが採れたら) このクモのオスはどんなプロポーズをするでしょうか？

ア) ダンスをする イ) 糸をつまびく ウ) 贈物をする

解説：ハエトリグモやコモリグモならア。ヨツデゴミグモなど造網性種はイ。アズマキシダグモならウ。

[第11問] (網に白帯を付けているコガネグモ類がいたら) この白帯にはどのような効果があるのでしょうか？

ア) 身を隠す イ) 体を大きく見せて敵をおどす ウ) 虫を誘う

解説：正解はウ。最近、アメリカのクレイグ Craig 女史が確認しました。コガネグモ類の白帯は紫外線をよく反射し、昆虫は紫外線をよく反射する物体に集まってくるのが分かりました。確認されたのはコガネグモの白帯についてです。ウズグモやゴミグモについてはまだはっきりしません。

[第12問] (卵のうがあったら) ○○グモの卵のうがありました。この中にはどのくらいの卵が入っているのでしょうか。開く前に予想してみましょう。

ア) 30個 イ) 100個 ウ) 1000個

解説：だいたいと言えば、ハエトリグモ類ならア。ヒメグモ類ならイ。コガネグモ類ならウ。実際のところは開いてみた状態で判断して下さい。

[第13問] (11月頃クサグモの卵のうがあったら) クサグモの卵のうがありました。この卵のうの中で越冬するクモはどのような状態でしょうか。開く前に予想してみましょう。

ア) 卵 イ) 子グモ

解説：クサグモの越冬態は子グモである。開くとたくさんの子グモ(幼体)が出てくる。これらのクモは光周期リズムを感知して出のう時期を決定しているの、通常は冬季に卵のう外へ出てくることはない。

[第14問] (他の種の網にクモがいたら) このクモは他のクモの網に入り込んで、いったいどうしたのでしょうか？

ア) 網にかかった餌を盗む イ) 網のクモを捕食する
ウ) 網糸を食べてしまう

解説：ヤリグモやセンショウグモならイ。イソウロウグモの場合はアの餌盗みはもちろんのこと、種によってイヤウなどの行動もとる。フタオイソウロウグモやクサグモの網に居候するチリイソウロウグモはホスト・キラーでもある。トビジロイソウロウグモなら網糸も捕食する。クロマルイソウロウグモはオオヒメグモの卵のうから出る子グモを捕食してしまう。なお、アシナガグモもよく他の種の網に入りこんで、餌を盗む。

[第15問] (7月にヒメグモの網に雌雄がいたら、あるいは10月にジョロウグモの網に雌雄がいたら) ここに小さなクモがいます。このクモはオスですが、メスの網に入り込んでいったいどうしたのでしょうか？

ア) 網にかかった餌を盗む イ) メスを守っている
ウ) 子育ての準備をしている

解説：正解はイ。オスは成体になると、ほとんど餌を探りません。メスが亜成体なら、脱皮直後に求愛して交尾します。他のオスから自分のメスを守っています。メスが成体の場合も、既に交尾は終わっている可能性が高いですが、他のオスから自分のメスを守っていると思われます。

[第16問] このクモは葉裏にじっとしています。このクモの網はどうしたのでしょうか。

ア) 網を張らない種類である イ) 夜になると網を張り出す

解説：トリノフンダマシ類やヤマシロオニグモ、サツマノミダマシならイ。カニグモ類やフクログモ類ならア。

問題はこのくらい用意しておけば、足りると思います。ピンゴ用には、9問あればいいのですから。発問はテレビの『日本人の質問』（NHK）風にやってもよいでしょうし、『世界ふしぎ発見』（TBS）風、『わくわく動物ランド』（TBS）風、仮説実験授業風でもよいでしょう。そういえば『日本人の質問』にもイエオニグモの求愛方法の問題が出ましたね（1996年9月1日放送）。解説者新海栄一さんの家の中に網を張らせたイエオニグモでオスがメスに求愛し、交尾するまでが見事に撮影されていました。実はこの前日『どうぶつ奇想天外』（TBS）にはハナグモのオスがメスをしばらくあげる求愛行動も放送されました（吉田嗣郎さん撮影）。9月2日のNHK教育『やってみようなんでも実験』（池田担当）のオオハエトリの求愛ダンスと続けるとクモの求愛の映像が3夜連続放送されたことになります。野外で実際に観察できる機会はまれです。オスが採れたら、標本にせず生かして持ち歩くと、メスの網やその近くに接近させることで求愛行動を観察できる場合があります。また、オスどうしの威嚇行動の後に勝者がメスに求愛に行く例がよくあります。

4) 観察会を終えて。

- ①フィルムケースに採れたクモの名前を書いてあげましょう。
- ②フィルムケースで飼育する場合にはフタに息抜きの孔を開けない方がよいでしょう。中側が乾燥しやすくなって、死んでしまいます。湿地にいるクモの場合は、特に乾燥に弱いので、切ったろ紙を水でぬらしてケースの内側に貼り付ける方法がよいでしょう。ろ紙がはがれてきたら水を補給します。
- ③前川式ホンチ箱はクモ飼育のすぐれものです。別にハエトリグモに限りません。使えば使うほど素晴らしい箱です。ぜひみなさんにお薦めします。

クモを飼育するときのコツは、飼育のベテランの方々が別稿で書いていますし、これからも書かれると思います。

新しい問題のアイデアや改良すべき点などがありましたら、御指摘下さい。みなさんの方法も御投稿下さい。

参考文献

前川隆敏, 1991. ネコハエトリのクモ合戦のさせ方. *Atypus*, (98/99) : 43-46.

千葉県佐倉市で記録された真正クモ類

長島 充

佐倉市は千葉県の北総地域に属し、千葉県中南部（清澄山系や館山等）と比較すると、山地や海岸がない分、同じ県内でもやや単調な自然環境と言えます。今回の主な観察フィールドとなった市北部地域は、印旛沼西部調整池を望む北総台地と干拓による広大な水田、平野部からなり、雑木林、植林、谷地田、水田、畑地、河川敷、集落等を含む典型的な里山景観によって構成されています。クモ類のデータとしてまとめたものは今のところまだありません。

・リスト：本記録は1992年7月から4年半程の期間で上記地域を中心に筆者がクモ類を観察、採集、撮影等を行ってきた結果です。採集方法としては春から秋にかけては、ハンドソーティング、スウィーピング、ピーティングを中心としてシフティングや夜間採集も補足的におこない、冬季の採集もしました。記録された真正クモ類は31科220種となり、この辺りで分布資料として発表しようと思ひ立ち、不完全な中間データではありますがリストとしてまとめてみました。科の配列は八木沼（1990）の日本産クモ類目録にない、各科内での属、種の配列も同様にそれぞれのアルファベット順としました。和名の後には採集地（町単位）の頭文字と齢表記を示しました。採集日時に関してはほぼ一人で年間を通して観察しているため省きました。

・記号の説明：地名、裏＝裏新町、城＝佐倉城址、宮＝宮前、土＝土浮、田＝飯田、萩＝萩山新田、岩＝岩名、寺＝寺崎、野＝飯野、谷＝谷津、南＝印南、直＝直弥、月＝月の谷津、鳥＝野鳥の森、小＝宮小路町

齢表記その他、F= 雌成体、M= 雄成体、f= 雌幼体、m= 雄幼体、y= 雌雄不明幼体、e= 卵のう、n= 巣

・マップ：国土地理院、二万五千分ノ一地形図 小林・佐倉・千葉東部・八街

目 録

Antrodeaetidae カネコトタテグモ科		
1. <i>Antrodiaetus roretzii</i> (L.Koch)	カネコトタテグモ	小 F
Ctenizidae トタテグモ科		
2. <i>Latouchia typica</i> (KISHIDA, 1913)	キシノウエトタテグモ	裏 F 城 f 宮 M
3. <i>Ummidia fragaria</i> (DÖNITZ, 1887)	キノボリトタテグモ	土 n
Atypidae ジグモ科		
4. <i>Atypus karschi</i> DÖNITZ, 1887	ジグモ	土 Fy 宮 M

Dictynidae ハグモ科		
5.	<i>Lathys humilis</i> (BLACHWALL,1855)	カレハグモ 宮 M
Uroboridae ウズグモ科		
6.	<i>Hyptiotes affinis</i> Bös.et STR.,1906	オウギグモ 土 FMy 城 F
7.	<i>Miagrammopes orientalis</i> Bös. et STR.,1906	マネキグモ 土 Fye 岩 y
8.	<i>Octonoba sybotides</i> (Bös. et STR , 1906)	カタハリウズグモ 土 F 萩 F
9.	<i>O.varians</i> (Bös. et STR.,1906)	ウズグモ 土 Fy 城 y
Segestriidae エンマグモ科		
10.	<i>Ariadna lateralis</i> (KARSCH,1881)	ミヤグモ 土 Ffy
Oonopidae タマゴグモ科		
11.	<i>Gamasomorpha cataphracta</i> KARSCH,1881	ダニグモ 土 M
Pholcidae ユウレイグモ科		
12.	<i>Pholcus crypticolens</i> Bös.et STR.,1906	ユウレイグモ 土 F
13.	<i>P.phalangioides</i> (FUESSLIN,1775)	イエユウレイグモ 土 Ff
14.	<i>Spermophora senoculata</i> (DUGES ,1836)	シモングモ 宮 FMye
Oecobiidae チリグモ科		
15.	<i>Oecobius annulipes</i> Lucas,1846	チリグモ 宮 F
Theridiidae ヒメグモ科		
16.	<i>Achaearana angulithorax</i> (Bös.et STR.,1906)	ツリガネヒメグモ 土 Fe
17.	<i>A.culicivola</i> (Bös.et STR.,1906)	カグヤヒメグモ 土 FMe
18.	<i>A.japonica</i> (Bös.et STR.,1906)	ヒメグモ 土 Fye 宮 Fye
19.	<i>A.kompirensis</i> (Bös.et STR.,1906)	コンピラヒメグモ 土 F
20.	<i>A.oculiprominentis</i> (S.SAITO,1939)	キヨヒメグモ 土 F
21.	<i>A.tepidariorum</i> (C.KOCH,1841)	オオヒメグモ 宮 FMye 城 FMe
22.	<i>Anelosimus crassipes</i> (Bös.et STR.,1906)	アシプトヒメグモ 土 Fy 宮 Fy
23.	<i>Argyroides bonadea</i> (KARSCH,1881)	シロカネイソウロウグモ 土 FMy 宮 FM
24.	<i>A.cylindrogaster</i> (SIMON,1888)	オナガグモ 土 FMye 城 y
25.	<i>A.fissifrons</i> O.P.-CAMBRIDGE,1869	チリイソウロウグモ 土 FMe 城 Fe
26.	<i>A.fur</i> Bös.et STR.,1906	フタオイソウロウグモ 土 FMy 谷 F
27.	<i>A.saganus</i> (DÖN.et STR.,1906)	ヤリグモ 土 FMmye 野 y
28.	<i>Coleosoma octomaculatum</i> (Bös.et STR.,1906)	ヤホシヒメグモ 土 Fe
29.	<i>Dipoena castrata</i> Bös.et STR.,1906	ボカシミジングモ 土 F
30.	<i>D.flavomarginata</i> Bös.et STR.,1906	キベリミジングモ 土 FM
31.	<i>D.mustelina</i> (SIMON,1888)	カニミジングモ 土 FMm
32.	<i>D.mutilata</i> Bös.et STR.,1906	コアカクロミジングモ 土 FMm
33.	<i>D.punctisparsa</i> YAGINUMA.1967	シモフリミジングモ 土 FMm
34.	<i>Enoplognatha japonica</i> Bös.et STR.,1906	ヤマトコノハグモ 土 FMy 田 Fy
35.	<i>E.transversifoveata</i> (Bös.et STR.,1906)	カレハヒメグモ 土 Ffe 田 FM
36.	<i>Episinus mirabilis</i> (Bös.et STR.,1906)	ハラナガヒシガタグモ 土 M
37.	<i>E.nubilus</i> YAGINUMA,1960	ムラクモヒシガタグモ 土 Ffm
38.	<i>Phoroncidia altiventris</i> YOSHIDA,1985	ハラダカツクネグモ 土 F

39.	<i>P. pilula</i> (KARSCH, 1879)	ツクネグモ	土 FM 田 F
40.	<i>Steatoda cavernicola</i> (BÖS. ET STR., 1906)	ハンゲツオスナキグモ	宮 FMye 野 F
41.	<i>S. erigoniformis</i> (O.P.-CAMBRIDGE)	ナナホシヒメグモ	土 m
42.	<i>Stemmops nipponicus</i> YAGINUMA, 1969	スネグロオチバヒメグモ	土 FMy
43.	<i>Theridion chikunii</i> YAGINUMA, 1960	バラギヒメグモ	土 FMye 宮 FMye
44.	<i>T. sterninotatum</i> BÖS. ET STR., 1906	ムナボシヒメグモ	土 Fy
45.	<i>T. subadultum</i> BÖS. ET STR., 1906	コケヒメグモ	土 FMye
Nesticidae ホラヒメグモ科			
46.	<i>Nesticus brevipes</i> YAGINUMA, 1970	コホラヒメグモ	土 F 田 F
Linyphiidae サラグモ科			
47.	<i>Asperthorax communis</i> OI, 1960	ザラアカムネグモ	鳥 FM
48.	<i>Bathypantes orientis</i> OI, 1960	テナガグモ	土 FM 南 F
49.	<i>Dicornua naraensis</i> (OI, 1960)	ナラヌカグモ	田 FM
50.	<i>Diplocephaloides saganus</i> (BÖS. ET STR., 1906)	ハラジロムナキグモ	萩 F
51.	<i>Doenitzius peniculus</i> OI, 1960	デーニッツサラグモ	土 F 萩 FM
52.	<i>D. pruvus</i> OI, 1960	コデーニッツサラグモ	土 FM
53.	<i>Erigone prominens</i> BÖS. ET STR., 1906	ノコギリヒザグモ	土 M 萩 F
54.	<i>Floronia bucculenta</i> (CLERCK, 1758)	ハナサラグモ	土 F
55.	<i>Gnathonarium exiccatum</i> (BÖS. ET STR., 1906)	ニセアカムネグモ	土 M 田 F
56.	<i>Gongylidioides cucullatus</i> OI, 1960	ズキンヌカグモ	鳥 F
57.	<i>Linyphia oidedicata</i> (HELSDINGEN, 1969)	ヘリジロサラグモ	土 FMy 城 FM
58.	<i>L. yunohamensis</i> BÖS. ET STR., 1906	ユノハマサラグモ	土 FMy
59.	<i>Meioneta nigra</i> , OI, 1960	クロケシグモ	宮 F 野 F
60.	<i>M. projecta</i> OI, 1960	ツノケシグモ	土 FMm
61.	<i>Nematogmus sanguinolentus</i> (WALCKENAER, 1837)	チビアカサラグモ	鳥 F
62.	<i>Oia imadatei</i> (OI, 1964)	イマダテテングヌカグモ	土 FM
63.	<i>Ostearius melanopygius</i> (O.P.-CAMBRIDGE, 1879)	スソグロサラグモ	土 F
64.	<i>Solenysa mellootteei</i> SIMON, 1894	アリマネグモ	萩 M
65.	<i>Strandella quadrimacurata</i> (UYEMURA, 1937)	ヨツボシサラグモ	土 F
66.	<i>Ummeliata insecticeps</i> (BÖS. ET STR., 1906)	セスジアカムネグモ	土 FM 田 FM
67.	<i>U. osakaensis</i> (OI, 1960)	オオサカアカムネグモ	宮 M 城 M
Mimetidae センショウグモ科			
68.	<i>Ero japonica</i> BÖS. ET STR., 1906	センショウグモ	土 Ffye
Theridiosomatidae カラカラグモ科			
69.	<i>Ogulnius pullus</i> BÖS. ET STR., 1906	ヤマジグモ	土 FMe 田 F
Mysmenidae コツブグモ科			
70.	<i>Mysmenella jobi</i> (KRAUS, 1967)	ナンブコツブグモ	土 M
Araneidae コガネグモ科			
71.	<i>Acusilas coccineus</i> SIMON, 1895	ハツリグモ	土 FMye 城 y
72.	<i>Araneus abscissus</i> (KARSCH, 1879)	キザハシオニグモ	寺 f 萩 m
73.	<i>A. cornutus</i> CLERCK, 1758	ナカムラオニグモ	土 FMfmy 岩 FM

74. <i>A. ejusmodi</i> (BÖS. ET STR., 1906)	ヌサオニグモ	直 F
75. <i>A. ishisawai</i> KISHIDA, 1928	イシサワオニグモ	土 F
76. <i>A. mitificus</i> (SIMON, 1886)	ビジョオニグモ	岩 F
77. <i>A. pentagrammicus</i> (KARSCH, 1879)	アオオニグモ	宮 F
78. <i>A. pseudocentrodes</i> BÖS. ET STR., 1906	トガリオニグモ	土 f
79. <i>A. semilunaris</i> (KARSCH, 1879)	マルツメオニグモ	土 F
80. <i>A. sp.</i>	マメオニグモ	土 Fy 萩 F
81. <i>A. sp.</i>	ヤミイロオニグモの近似種	土 FMfmye 田 F
82. <i>A. variegatus</i> YAGINUMA, 1960	ニシキオニグモ	土 Ffy 野 F
83. <i>A. ventricosus</i> (L. KOCH, 1878)	オニグモ	土 FMfmye 宮 Ffy
84. <i>A. viperifer</i> SCHENKEL, 1963	カラオニグモ	土 Ffm
85. <i>Argiope amoena</i> L. KOCH, 1878	コガネグモ	土 FMmye 岩 F
86. <i>A. boesenbergi</i> LEVI, 1983	チュウガタコガネグモ	土 Ff
87. <i>A. bruennichii</i> (SCOPOLI, 1772)	ナガコガネグモ	土 FMye 田 FMf
88. <i>A. minuta</i> KARSCH, 1879	コガタコガネグモ	土 FMy 城 F
89. <i>Chorizopes nipponicus</i> YAGINUMA, 1963	ヤマトカナエグモ	土 e
90. <i>Cyclosa argenteoalba</i> BÖS. ET STR., 1906	ギンメッキゴミグモ	土 Fy 田 y
91. <i>C. laticauda</i> BÖS. ET STR., 1906	キジロゴミグモ	土 Mm
92. <i>C. octotuberculata</i> KARSCH, 1879	ゴミグモ	城 FMy 宮 My
93. <i>C. sedeculata</i> KARSCH, 1879	ヨツデゴミグモ	土 FMfmye 田 FMy
94. <i>Cyrtarachne bufo</i> (BÖS. ET STR., 1906)	トリノフンダマシ	土 Fe 田 Fe
95. <i>C. inaequalis</i> THORELL, 1895	オオトリノフンダマシ	土 FMfye 田 FMfe
96. <i>C. nagasakiensis</i> STRAND, 1918	シロオビトリノフンダマシ	土 F
97. <i>C. nigra</i> YAGINUMA, 1960	クロトリノフンダマシ	土 F
98. <i>Larinia argiopiformis</i> BÖS. ET STR., 1906	コガネグモダマシ	土 f 萩 Fy
99. <i>Metleucauge yunohamensis</i> (BÖS. ET STR., 1906)	メガネドヨウグモ	土 F 田 F
100. <i>Neoscona adianta</i> (WALCKENAER, 1802)	ドヨウオニグモ	萩 Fy 寺 FMy
101. <i>N. mellottei</i> (SIMON, 1895)	ワキグロサツマノミダマシ	土 FMfmy 田 FMy
102. <i>N. nautica</i> (L. KOCH, 1875)	イエオニグモ	宮 F
103. <i>N. punctigera</i> (DOLESCHALL, 1857)	コゲチャオニグモ	土 FMfy 岩 F
104. <i>N. scylla</i> (KARSCH, 1879)	ヤマシロオニグモ	土 FMfy 田 FMy
105. <i>N. scylloides</i> (BÖS. ET STR., 1906)	サツマノミダマシ	土 FMfmy 田 FMy
106. <i>Nephila clavata</i> L. KOCH, 1878	ジョロウグモ	土 FMfye 城 FM
107. <i>Yaginumia sia</i> (STRAND, 1906)	ズグロオニグモ	宮 FMy
108. <i>Zilla astridae</i> (STRAND, 1917)	サガオニグモ	土 FMfmy
109. <i>Z. sachalinensis</i> (S. SAITO, 1934)	カラフトオニグモ	土 F
Tetragnathidae アシナガグモ科		
110. <i>Dyschiriognatha quadrimaculata</i> BÖS. ET STR., 1906	ヨツボシヒメアシナガグモ	土 FM 南 M
111. <i>D. tenera</i> (KARSCH, 1879)	ヒメアシナガグモ	土 F 南 F 田 M
112. <i>Leucauge magnifica</i> YAGINUMA, 1954	オオシロカネグモ	土 FMfy 城 F
113. <i>L. subblanda</i> BÖS. ET STR., 1906	コシロカネグモ	土 FMfy

114.	<i>L.subgemmea</i> BÖS.et STR.,1906	キララシロカネグモ	土 Ffy 田 F
115.	<i>Pachygnatha clercki</i> SUNDEVALL,1823	アゴブトグモ	土 FM
116.	<i>Tetragnatha caudicula</i> (KARSCH,1879)	トガリアシナガグモ	土 Ffy
117.	<i>T.maxillosa</i> THORELL,1895	ヤサガタアシナガグモ	土 F 田 M
118.	<i>T.praedonia</i> L.KOCH,1878	アシナガグモ	土 Fy 宮 F 田 M
119.	<i>T.squamata</i> KARSCH,1879	ウロコアシナガグモ	土 Fye
120.	<i>T.vermiformis</i> EMBERTON,1884	シコクアシナガグモ	萩 F

Urocteidae ヒラタグモ科

121.	<i>Uroctea compactilis</i> L.KOCH,1878	ヒラタグモ	宮 FMy 田 FM
------	--	-------	------------

Agelenidae タナグモ科

122.	<i>Agelena limbata</i> THORELL,1879	クサグモ	土 FMye 宮 M
123.	<i>A.opulenta</i> L.KOCH,1878	コクサグモ	土 FMmy 宮 Fy
124.	<i>Cicurina japonica</i> (SIMON,1886)	コタナグモ	土 FM 宮 M
125.	<i>Coelotes corasides</i> (BÖS.et STR.,1906)	ヤマヤチグモ	土 M 野 FMy
126.	<i>C.exitialis</i> L.KOCH,1878	クロヤチグモ	土 Fy 宮 F
127.	<i>C.insidiosus</i> L.KOCH,1878	シモフリヤチグモ	土 F 谷 FM
128.	<i>C.luctuosus</i> L.KOCH,1878	メガネヤチグモ	宮 FM
129.	<i>C.musashiensis</i> NISHIKAWA,1989	ムサシヤチグモ	土 F
130.	<i>Cybaeus nipponicus</i> (UYEMURA,1938)	カチドキナミハグモ	土 Fy 城 f 宮 M

Hahniidae ハタケグモ科

131.	<i>Hahnia corticicola</i> BÖS.et STR.,1906	ハタケグモ	宮 FM
------	--	-------	------

Pisauridae キシダグモ科

132.	<i>Dolomedes pallitarsis</i> DÖN.et STR.,1906	スジプトハシリグモ	土 F
133.	<i>D.sulfureus</i> L.KOCH,1878	イオウイロハシリグモ	土 FMfye 城 Fy
134.	<i>Pisaura lama</i> BÖS.et STR.,1906	アズマキシダグモ	土 FMfye 城 y

Lycosidae コモリグモ科

135.	<i>Arctosa depectinata</i> (BÖS.et STR.,1906)	カガリビコモリグモ	岩 f 野 f
136.	<i>A.ebicha</i> YAGINUMA,1960	エビチャコモリグモ	土 FM
137.	<i>A.fujiii</i> TANAKA,1985	フジイコモリグモ	土 FMfm 田 FM
138.	<i>A.japonica</i> (SIMON,1888)	ヒノマルコモリグモ	土 FM 裏 F
139.	<i>A.subamylacea</i> (BÖS.et STR.,1906)	クロココモリグモ	土 F 岩 F
140.	<i>Lycosa coelestis</i> L.KOCH,1878	ハラクロコモリグモ	宮 FMy
141.	<i>Pardosa astrigera</i> L.KOCH,1878	ウツキコモリグモ	萩 FM 野 FMye
142.	<i>P.laura</i> KARSCH,1879	ハリゲコモリグモ	土 FMye 宮 FM
143.	<i>P.pseudoannulata</i> (BÖS.et STR.,1906)	キクツキコモリグモ	土 FMye 田 fy
144.	<i>Pirata piratoides</i> (BÖS.et STR.,1906)	イモコモリグモ	土 FMe
145.	<i>P.procurvus</i> (BÖS.et STR.,1906)	チビコモリグモ	宮 F 萩 M
146.	<i>P.subpiraticus</i> (BÖS.et STR.,1906)	キバラコモリグモ	土 Ffmy 南 m
147.	<i>Trochosa ruricola</i> (DE GEEB,1778)	アライトコモリグモ	土 Ff 宮 F

Oxyopidae ササグモ科

148.	<i>Oxyopes sertatus</i> L.KOCH,1878	ササグモ	土 FMy 宮 FMfye
------	-------------------------------------	------	---------------

Clubionidae フクログモ科

149.	<i>Chiracanthium japonicum</i> BÖS.ET STR.,1906	カバキコマチグモ	土 Ffy
150.	<i>C.lascivum</i> KARSCH,1879	ヤマトコマチグモ	土 FMe
151.	<i>C.unicum</i> BÖS.ET STR.,1906	ヤサコマチグモ	田 M
152.	<i>Clubiona japonica</i> L.KOCH,1878	ヤマトフクログモ	土 FMy 田 Fe
153.	<i>C.japonicola</i> BÖS.ET STR.,1906	ハマキフクログモ	土 F 萩 F
154.	<i>C.jucunda</i> (KARSCH,1879)	ヤハズフクログモ	土 Ffy
155.	<i>C.kurilensis</i> BÖS.ET STR.,1906	ヒメフクログモ	土 F 田 FM
156.	<i>C.lena</i> BÖS.ET STR.,1906	トビイロフクログモ	土 F 田 F
157.	<i>C.vigil</i> KARSCH,1879	ムナアカフクログモ	土 Fy 田 f
158.	<i>Itatsina praticola</i> (BÖS.ET STR.,1906)	イタチグモ	土 FMfy 岩 F
159.	<i>Orthobula crucifera</i> BÖS.ET STR.,1906	オトヒメグモ	土 F 鳥 F
160.	<i>Phrurolithus claripes</i> (DÖN.ET STR.,1906)	イナズマウラシマグモ	土 F 鳥 F
161.	<i>P.coreanus</i> PAIK,1991	キレオビウラシマグモ	土 F
162.	<i>P.nipponicus</i> KISHIDA,1914	ウラシマグモ	土 FMy
163.	<i>Trachelas japonicus</i> BÖS.ET STR.,1906	ネコグモ	宮 F 萩 M

Anyphaenidae イツツグモ科

164.	<i>Anyphaena pugil</i> KARSCH,1879	イツツグモ	土 FMfy
------	------------------------------------	-------	--------

Ctenidae シボグモ科

165.	<i>Anahita fauna</i> KARSCH,1879	シボグモ	土 Ffy 宮 Fye
------	----------------------------------	------	-------------

Heteropodidae アシダカグモ科

166.	<i>Heteropoda venatoria</i> (LINNAEUS,1758)	アシダカグモ	宮 y
------	---	--------	-----

Gnaphosidae ワシグモ科

167.	<i>Cladothela oculinotata</i> (BÖS.ET STR.,1906)	チャクロワシグモ	宮 F
168.	<i>Drassodes serratidens</i> SCHENKEL,1963	トラフワシグモ	田 f
169.	<i>Drassyllus sanmenensis</i> PLATNICK ET SONG,1986	エビチャヨリメケムリグモ	土 M
170.	<i>Gnaphosa kompirensis</i> BÖS.ET STR.,1906	メキリグモ	土 F 宮 M
171.	<i>Hitobia unifascigera</i> (BÖS.ET STR.,1906)	ヒトオビトンビグモ	土 F
172.	<i>Kishidaia albimaculata</i> (S.SAITO,1934)	ヨツボシワシグモ	土 F
173.	<i>Micaria japonica</i> HAYASHI,1985	ヤマトツヤグモ	土 F
174.	<i>Zelotes pallidipatellis</i> (BÖS.ET STR.,1906)	マエトビケムリグモ	土 F

Thomisidae カニグモ科

175.	<i>Bassaniana decorata</i> (KARSCH,1879)	キハダカニグモ	土 Ffmy 宮 M
176.	<i>Coriarachne fulvipes</i> (KARSCH,1879)	コカニグモ	土 M 城 y
177.	<i>Diaea subdola</i> O.P.-CAMBRIDGE,1885	コハナグモ	土 Ff 萩 F
178.	<i>Misumenops tricuspidatus</i> (FABRICIUS,1775)	ハナグモ	土 FMfy 田 FMe
179.	<i>Oxyptila matsumotoi</i> ONO,1985	マツモトオチバカニグモ	鳥 F
180.	<i>Oxytate striatipes</i> L.KOCH,1878	ワカバグモ	土 FMfmy
181.	<i>Pistius undulatus</i> KARSCH,1879	ガザミグモ	土 Fmy
182.	<i>Thomisus labefactus</i> KARSCH,1881	アズチグモ	土 FMfy
183.	<i>Tmarus rimosus</i> PAIK,1973	セマルトラフカニグモ	土 FMy 田 M

184. <i>Xysticus croceus</i> FOX, 1937	ヤミイロカニグモ	土 FMfye 宮 FM
185. <i>X. ephippiatus</i> SIMON, 1880	カラカニグモ	宮 F
186. <i>X. kurilensis</i> STRAND, 1907	チシマカニグモ	田 Fy 南 F
187. <i>X. saganus</i> BÖS. ET STR., 1906	オオヤミイロカニグモ	土 Fe 宮 F
188. <i>X. trizonatus</i> ONO, 1988	オビボソカニグモ	土 Ffmy

Philodromidae エビグモ科

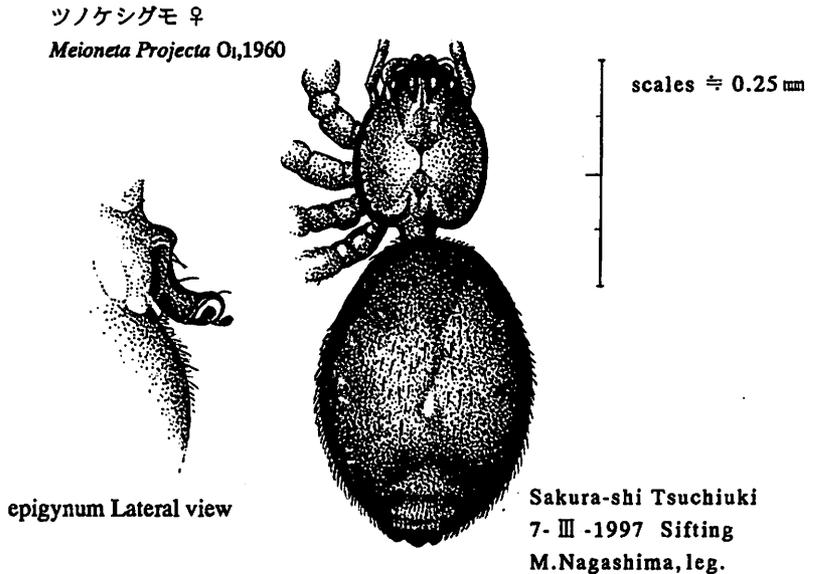
189. <i>Philodromus auricomus</i> L. KOCH, 1878	キンイロエビグモ	土 FMfy
190. <i>P. spinatarsis</i> SIMON, 1895	キハダエビグモ	土 FMfmy
191. <i>P. subaureolus</i> BÖS. ET STR., 1906	アサヒエビグモ	土 FMfy 萩 y
192. <i>Tibellus tenellus</i> (L. KOCH, 1876)	シャコグモ	土 FMy 月 F

Salticidae ハエトリグモ科

193. <i>Carrhotus xanthogramma</i> (LATREILLE, 1819)	ネコハエトリ	土 FMfy 城 Fy
194. <i>Evarcha albaria</i> (L. KOCH, 1878)	マミジロハエトリ	土 FMfy 宮 FMy
195. <i>E. sp.</i>	マミジロハエトリの一種	岩 M
196. <i>Harmochirus brachiatus</i> (THORBELL, 1877)	ウデブトハエトリ	土 F
197. <i>H. pullus</i> (BÖS. ET STR., 1906)	キレワハエトリ	土 Ff
198. <i>Helicius cylindratus</i> (KARSCH, 1879)	コジャバラハエトリ	土 Ff 田 M
199. <i>H. sp.</i>	ジャバラハエトリの一種	土 Ff 萩 FMy
200. <i>H. yaginumai</i> BOHD. ET PROS., 1987	ジャバラハエトリ	土 FMy 萩 F
201. <i>Laufeia aenea</i> SIMON, 1888	エクスハエトリ	土 Ffy
202. <i>Marpissa dybowskii</i> (KULCZYNSKI, 1895)	オオハエトリ	土 FMfy
203. <i>M. elongata</i> (KARSCH, 1879)	ヤハズハエトリ	土 FMfy 田 F
204. <i>M. magister</i> (KARSCH, 1879)	オスクロハエトリ	土 M 寺 FMy
205. <i>M. pulla</i> (KARSCH, 1879)	ヨダンハエトリ	土 FMmy 宮 FMy
206. <i>Menemerus confusus</i> BÖS. ET STR., 1906	シラヒゲハエトリ	宮 Fy 岩 FM
207. <i>Myrmarachne formicaria</i> (DE GEER, 1778)	タイリクアリグモ	土 F 宮 F
208. <i>M. innermichelis</i> BÖS. ET STR., 1906	ヤサアリグモ	土 Ff
209. <i>M. japonica</i> (KARSCH, 1879)	アリグモ	宮 FMy
210. <i>Phintella abnormis</i> (BÖS. ET STR., 1906)	チャイロアサヒハエトリ	城 f
211. <i>P. lineata</i> (KARSCH, 1879)	メガネアサヒハエトリ	萩 FM 田 FMf
212. <i>Plexippoides annulipedis</i> (S. SAITO, 1939)	マダラスジハエトリ	土 FMfmy
213. <i>P. doenitzi</i> (KARSCH, 1879)	デーニツツハエトリ	土 FMfye 萩 FM
214. <i>Plexippus setipes</i> KARSCH, 1879	ミスジハエトリ	宮 FMy
215. <i>Pseudicius vulpes</i> (GRUBE, 1861)	イナズマハエトリ	城 M 田 F
216. <i>Rhene atrata</i> (KARSCH, 1881)	カラスハエトリ	土 FMfy 田 F
217. <i>R. sp.</i>	ヒメカラスハエトリ	土 F
218. <i>Silerella vittata</i> (KARSCH, 1879)	アオオビハエトリ	土 Mfy 宮 FMfmy
219. <i>Sitticus sp.</i>	コゲチャハエトリの一種	土 F 田 F
220. <i>Synagelides agoriformis</i> STRAND, 1906	アメイロハエトリ	城 M

1997年5月28日現在

記録されたクモのうちキノボリトタテグモは巢のみ、ヤマトカナエグモは卵のうのみの確認です。sp. 種のうち No,199,219は千国図鑑に掲載されているものです。また sp. を除いたナラヌカグモ、ツノケシグモ、イマダテテングヌカグモ、イシサワオニグモ、ムサシヤチグモ、ヤマトツヤグモの六種は千葉県新記録となりました。あくまでも個人的な記録ですので今後、本格的な調査が進めば、まだ種類は増えるものと思われます。最後になりましたが、標本を同定していただいた浅間茂さん、池田博明さん、小野展嗣さん、谷川明男さんに、また特に浅間茂さんには千葉県のクモ相や今回のリスト制作についてご指導していただきました。ここに紙面をお借りしてお礼を申し上げます。



<参考文献>

1. 松本 誠治・新海 栄一・小野 展嗣・他, 1976. 学研の図鑑クモ. 学習研究社
2. 新海 栄一・高野 伸二, 1984. フィールド図鑑 クモ. 東海大学出版会
3. 八木沼健夫, 1985. グリーンブックス, クモの観察と研究. ニューサイエンス社
4. 八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. 保育社
5. 新海 栄一・高野 伸二, 1987. クモ基本 50. 森林書房
6. 小野 展嗣, 1988. A Revisional Study of the Spider Family Thomisidae(Arachnida.Araneae) of Japan. 国立科学博物館
7. 千国安之輔, 1989. 写真・日本クモ類大図鑑. 借成社
8. 八木沼健夫・平嶋義宏・大熊千代子, 1990. クモの学名と和名-その語源と解説-. 九州大学出版会
9. 浅間 茂・笹岡 文雄・貞元 己良・平松 毅久, 1994. 千葉市におけるクモの生息状況及び生息系調査. 千葉自然環境調査会 (編)
10. 熊田 憲一・池田博明・谷川明男, 1995. 神奈川県産クモ類目録. *Kishida* 68.
11. 浅間茂, 1997. 千葉県のクモ類. 千葉県動物誌. 文一総合出版

アカイソウロウグモの採集記録追加

谷川 明 男

1996年8月15日、池田博明氏とともに神奈川県横須賀市の逸見浄水場付近から県立塚山公園付近にかけてクモ類の採集を行った。その際、アカイソウロウグモ *Argyrodes miniaceus* (DOLESCHALL, 1867) を採集することができたので、ホストのクモとともにここに記録しておく。アカイソウロウグモの観察採集記録は意外に少なく、神奈川県産クモ類目録（熊田・池田・谷川, 1995, *Kishidaia*, (58): 1-48.）によると、1994年までに発表された神奈川県内の記録は、横須賀市大楠山（植村, 1938, *Acta arachnol.*, 3: 19-30; 熊田, 1980, *Kishidaia*, (45): 48-27）と逗子市神武寺（熊田・谷川, 1992, *Kishidaia*, (63): 49-56.）の2ヶ所3報のみである。しかも、熊田（1980）の記録は植村（1938）の引用であるから、実質的には2報ということになる。これ以外に谷川らが現在投稿中の論文（谷川・千田・熊田, 印刷中, *Acta arachnol.*, 45.）に横浜市釜利谷の記録があるが、それをあわせても3ヶ所であり、発表された記録の数はキジロオヒキグモよりも少ないのである。

今回採集したのは、池田氏と谷川あわせて雌成体が4頭で、このうち2頭はジョロウグモ *Nephila clavata* L. KOCH, 1878 の網から、2頭はクサグモ *Agelena limbata* THORELL, 1879 の網からそれぞれ採集した。

オニグモの網内で餌盗みしていたアシナガグモの観察

三川 英之・石渡 大輔・坂田 大輔・林 賢太郎（関東学院中学校2年）
・新海 明

1996年5月12日に神奈川県逗子市神武寺にてオニグモの円網にアシナガグモ *Tetragnatha praedonia* が2頭侵入していた。アシナガグモは、円網についていた双翅目を盗んでいた。円網の中には主のオニグモ *Araneus ventricosus* はいなかった。円網の大きさは45 cm（タテ）×45 cm（ヨコ）で側溝の上につくられていた。

円網の中で餌を盗むクモとしてはイソウロウグモ類 *Argyrodes* が有名だが、アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* やドヨウグモ類 *Metleucauge* spp. もしばしば他のクモが張った網に侵入するという。しかし、その網の中で餌を盗んでいるところを記録したものは余り見ないようなので、ここに報告した。

シロオビトリノフンダマシの交接

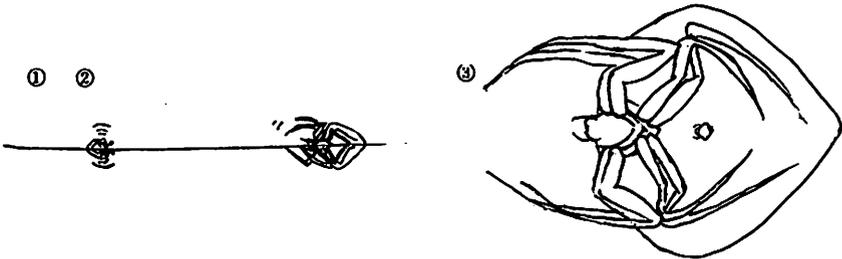
泉 宏子

1996年8月、千葉市若葉区中野町の自宅裏のススキ林に、昨年生息していたシロオビトリノフンダマシを確認しにいったところ、雌3頭が見られた。また、偶然雌と離れた所の葉先にいた雄1頭を採集できたため、雌との交接実験を試みることにした。

8月7日 雄を採集。管瓶に入れて飼育。

8月8日 雌を採集。10×10×15 cmの透明飼育ケースに入れて飼育。

8月11日 夜雌が造網し（糸を横に渡しただけ）ぶら下がっているところに、雄を糸



をたらしして近づけ雌の糸に置いた。（以降同様の実験を5日間に渡り行った。）

雄は雌のあたりをうろつくが、1.5 cm程離れた所で向合い静止した。

(1)雄は2秒程体を細かに振動させた。

(2)雌は第1・2脚を動かし、雄を手招くような仕草をとった。

(3)雄は歩み寄り、雌の腹部の上で向きを変えて、頭胸部を屈めて交接の姿勢をとった。

（3～6秒間）

雄は元の場所にもどり、(1)～(3)の行動はその後間をあげずに4回繰り返された。雌に近づくことがなくなったのを見計らい、雄を管瓶にもどした。

8月12日 (1)～(3)を5回繰り返した。

8月13日 どちらからも反応を示さず、雄は離れていくだけだった。

8月14日 朝飼育ケース内にレモン色の美しい卵囊が1つできていた。（前夜から6時間以内に産卵したものと推定される。）

夜 (1)～(3)を5回繰り返した。と同時に雌の方からも歩み寄る行動が見られた。

8月15日 (1)～(3)を1回だけ行った。

外雌器への挿入中の触肢の状態は、雄が1.5 mm程と極めて小さかったため、観察し得えなかったのが残念だった。他のトリノフンダマシの交接の様子は分からないが、シロオビトリノフンダマシでは、複数回の交接が行われ、1回の交接が3～6秒間と短く、それを約1分間に5回も行うことが見られた。また、産卵前は交接が見られなかったが、産卵と何らかの関係があるのか不明である。この後、雄が8月24日に死ぬまでに2度同様の実験をしたが、2頭に反応は見られず、産卵もしなかった。この間、雌は網にかかった小さな蛾を捕食し、雄は等身大の双翅目の一種を与えると捕食していた。

アカオビゴケグモの採集・観察・雑感

谷川明男

1996年12月28日から1997年1月4日にかけて沖縄県の西表島に滞在し、その間、何度か東部の大富付近においてアカオビゴケグモ(=ヤエヤマゴケグモ) *Latrodectus* sp.の採集を行った。このときに観察したアカオビゴケグモの様子などについてここに報告する。

この場所のアカオビゴケグモは、下謝名松栄氏によって最近発見されたものである(日本蜘蛛学会1996年大会発表)。下謝名氏の発表のとおり、道路沿いに設置された側溝内の水抜き穴に多数の個体が生息していた。また、側溝の網ブタ(セアカゴケグモやハイイロゴケグモなどが好む例のやつ)の間に造網しているものも数頭見られた。ただし、網ブタに造網している場合には、上から見て卵のうが見えてもクモが見えることはなく、私が網ブタから採集した全てのクモは網の間に詰まった枯れ草や土の下に隠れ家を形成し、そこに隠れていた。また、昼間は、すべてのクモが穴に隠れており、穴の外にいる個体はいなかった。夜の観察では、雄の幼体2個体と、メスの幼体1個体が穴の外に張り出した糸にいるのを観察した。雌雄成体で穴の外にいるものは、昼夜を問わずいっさい観察されなかった。

網ブタに造網しているのものは何の苦労もなく採集することができたが、側溝の穴の中にあるものの採集では結構苦勞した場合があった。側溝の穴の中にあるものは、原則として穴の中を懐中電灯で照らし、覗き込んで葉さじでかき出した。

しかし、穴の奥に横向きの窟みができているとそこに逃げ込まれてしまい、容易に採集できなくなってしまう場合もあった。しかし、こちらも工夫していろいろな採集法を試み、発見したもののうちどうしても採集できなかった2個体を除いて、他の個体は何とか採集することができた。クモのいる穴には入り口にふたをするように糸がかけてあるか、あるいは穴からたくさんの糸が出ているのですぐにわかった。この糸に触れるとクモは驚いて奥にひっこんでいく。このときに、穴が行き止まりになっていれば難無く採集できるのだが、横穴があって、そこに隠れられてしまうと苦勞する。まず試したのは逆さ吸虫管法である。これは、本来口にくわえる柔軟なチューブをクモの隠れている横穴にさしこみ、本来クモを吸うほうのガラス管を口にくわえて吸う方法だ。これで雄の幼体を1頭採集できたが、たまたまその穴の方向がちょうどよかつただけのようで、他の場合には成功しなかった。つぎに試したのは、レンタカーの車載工具にあった先の曲がったドライバーのような工具の利用である。これはまったく成功しなかった。湾曲のしかたが横穴にフィットしなかったのだ。この方法を応用するならば、先がほぼ直角に曲がったものを穴の大きさにあわせて自作していく必要がある。この次はそれも用意していくつもりだ。一番成功率が高かったのは、次の方法である。まず、クモに危険を知らせてしまう穴の内外の糸を除去する。糸を除去しながら、逃げていくクモをよく見ている。横穴がなくて、クモが穴の底にじっとしているようならば、かき出して簡単に採集することができる。クモが横穴に隠れるようであれば、クモの隠れる横穴の方向を確認しておく。そして、しばらくそのままほっておきクモが再び横穴から出てくるのを待つ。クモが再び現れたら、

クモの体のむこうにすばやく薬さじを差し込んでかき出す。このとき、穴の内外に糸が張られたままだとクモはすばやく危険を察知して逃げ込んでしまうのだ。糸が除去してあれば、クモには薬さじの接近はわからない。クモが奥のほうにいてクモの向こうに薬さじを入れるのが困難なようなら、先に確認しておいたクモの逃げ込む横穴の入り口に薬さじをすばやく差し込み、クモの逃げ道をなくしてから別の薬さじでクモをかき出すかピンセットでつまみ出す。待つ時間はほんの十数分でよいようだ。最初は、2日後とか、翌日とか、昼から夜までとか、長く待ちすぎてしまい、またもとのように糸を張りめぐらされて失敗した。ただし、短時間に採集失敗を繰り返しているとクモの警戒心が強くなり、なかなか横穴から出てこなくなる。どうしても採集できなかったもののうちの一例はこのケースで、2回連続して採集に失敗したら獲物を持って横穴に入ってしまう、1時間たっても出てこなかった。そして、それが西表最後の晩のことだったので日を改めての再挑戦ができなかったのだ。もう一つは、奥の深い排水管内に造網していたもので、穴に入れることのできる道具がどれもまったくクモに届かなかった例である。

さて、穴の中のゴケグモの向こうにうまく薬さじを入れることができ、かき出そうとすると、クモは何とか逃げようとしてあがきつづける場合と、偽死をする場合とが見られた。何とか逃げようとしているものは糸疣から粘液（中心に糸を伴っているように見えたが、はっきりとはわからなかった）を出すものが多かった。雌の場合の偽死は、オオヒメグモなどと同じように足を縮め、丸く固まった状態になるものであったが、雄の幼体と雄の成体の行った偽死は、足を伸ばしたままで動かなくなるものであった。雄の偽死には最初うっかりだまされ、採集時になにかのひょうしに殺してしまったのかと勘違いした。しかし、写真を撮ろうとして足の形を整えていると、いきなり逃げ出したのである。

穴の中にいるクモや穴から取り出したクモをピンセットや指で軽くつつくと足を踏ん張って体を上下させる行動が見られることがあった。これは穴から出したクモの写真を撮ろうとして、つつきまわしているときに気がついたのである。その時にクモは腹部の赤い模様をつつかれた方向に向けることが多かった。これは赤い模様を見せつける威嚇行動なのであろう。このあたりから判断するとやはりあの赤い斑紋は警告色であるとおもわれる。

側溝の水抜き穴に糸が見られても、そこにいるのはアカオビゴケグモとは限らず、ハンゲツオスナキグモの場合もあった。やはりゴケグモ属とカガリグモ属とは似たような場所に造網するようだ。しかし、私自身はアカオビゴケグモを側溝の穴、側溝の網ブタ以外の場所で発見することはできなかった。ハンゲツオスナキグモは草原や田んぼのあぜにおいていぶん採集したが、そのような場所でゴケグモは見つからなかった。このように、現在アカオビゴケグモが特定の場所の人工の環境下にしか存在しないことは、西表島のアカオビゴケグモが土着の種ではなく、移入されたものであることの証拠であろう。かなり以前に西表島からゴケグモが記録されているが、私は同じ根拠から、これもそのときに移入されてきたもので、継続的に存在していたのではないと考える。

ホシスジオニグモの変わったラッピング 谷川明男

1996年12月29日17時30分頃のことである。沖縄県西表島の上原において、ホシスジオニグモ *Neoscona theisi* (WALCKENAER, 1841) が網にかかったガをラッピングしていた。私はラッピングというものはクモが糸を出しながら獲物を回転させるものだとばかり思っていたが、今回観察したのはクモが糸を出しながら獲物の周りをグルグルと回っていたのだ。ガの大きさはハネの長さをいれてクモの体長の約2倍であった。網にかかったガを思うように回転させることができずにそうなったのだろうか。

寒い夜のイエオニグモ？ 谷川明男

1997年1月4日22時45分頃、新横浜駅のJR横浜線のホームにおいて、天井の蛍光灯の直下に円網を張り、その中心にいるイエオニグモ *Neoscona nautica* (L.Koch, 1875) を見た。クモの体はシルエットにしか見えなかったのあるいはイエオニグモではなかったかもしれないが、私にはそう見えた。大きさから判断すると雌の成体らしい。駅前のビルの電光表示によるとその時の気温は6℃であった。蛍光灯のあたりにはこのクモしか見られず、虫が飛んできているわけでもなかった。いったい何がこのクモにそうさせていたのであろうか？

緑のハグモも子育てをする？ 谷川明男

1996年の春休みも西表にクモ類の観察採集に出かけた。3月31日のことである。西表島東部の大原付近の林内で緑のハグモの親とその巣の中でまどい中の子グモを発見した。緑のハグモというのは、私が勝手にそう呼んでいるだけなのだが、沖縄に生息しているハグモの種名不明種で、体色が緑色のクモのことである。本州の赤いハグモと対比させてそう呼んでいる。

日頃より新海明さんから“親と子が同居していたら餌をかけてみるとよい”と聞かされていたので、そうしてみた。近くの地面でアリを探し、巣の中に落としてみた。すぐに親が近づいてきて、やおらアリの足に噛み付き、巣の中央に引きずっていった。巣の中央に到達すると、親はアリに噛みつきながらじっとしてしまった。そこで、これも新海さんの教えどおり“しばらく観察してまわってから帰り道に見てみる”ことにした。

しばらく採集観察をして帰り道に見てみると、2頭の子グモがアリに噛み付いていた。親はアリをかける前と同じ位置に戻っていた。これは親が捕らえた獲物を子グモに与え、子グモはその獲物を集団で食べるということである。

私の観察はここまでである。専門家の手によってさらに観察されればもっと詳しいことがわかるであろう。種名も一日も早く確定されることを期待している。記載を希望する方

がおられたら標本は十二分にあるのでご連絡くだされば喜んで贈呈させていただきます。

ジョロウグモ幼体の網にいたワキグロサツマノミダマシ♂亜成体

平松毅久

1996年7月25日和歌山県東牟婁郡古座町のある林道でジョロウグモ *Nephila clavata* 幼体（以下ジョロウ）の網のこしき部にワキグロサツマノミダマシ *Neoscona mellotteii* ♂亜成体（以下ワキグロ）が占座しているのを見つけた。網の主とみられるジョロウ（体長はワキグロより小）は網の右上方のワク糸付近に追いやられて？おり、おそらく網を乗っ取られてからそれ程時間がたっていないものと思われた。同行の稲垣成二氏が何か餌をかけてみようと言い出し、アリの一種（体長約2~3mm）を網の下部に引つ掛けてみたところ、ワキグロはあたかも自分の網のように振動の位置を探知しようとタテ糸をjerkingし、各数回ずつjerkingを断続的に5~6度繰り返した後ついにアリのかかっている場所に突進した。ワキグロはアリの噛み付いてから数秒もみ合っていたが、気に入らなかったのかアリの放り出してしまった。以上のことからワキグロは他種であるジョロウの網上で、かかった餌に対して正確に定位し採餌できるものと推察された。

今回のようなワキグロ♂亜成体の乗っ取り行動がどの位の頻度で起こっているかわからないが、もし他種や同種他個体の網を乗っ取ることによって成体になるまでにある程度の餌を確保できれば、自ら造網するコストを省略して成体になるための栄養に回すことができ、より大きな雄となって繁殖戦略上も有利—ということなのだろうか（そんなバカな）。それとも生息密度に関連して、齢や性、同種他種に関係なく隙あらばいつでも起こりうるものなのだろうか？また造網性クモ類の♂は一般的に成体になると網を張らなくなり、網を張る機能自体を失うことが知られているが、亜成体レベルで既に糸腺の退化が始まっているのであろうか？もしそうであれば今回のワキグロの乗っ取り行動と何らかの関係があるのだろうか？もっとも色々考えるまでもなく単なる偶発的な行動でクモの個性の問題なのかもしれないが、面白い例として報告する。

腹部背面に褐色斑紋をもつワキグロサツマノミダマシ

平松毅久

またワキグロの話題で恐縮だが、先のジョロウの網を乗っ取った不屈きなワキグロ君を見た同じ日、同じ林道で奇妙なワキグロサツマノミダマシを見た。なんと緑色の腹部背面の中央部分に幅広い褐色斑紋があったのである。1990年に谷川明男氏が和歌山、三重、奈良県境の湊峡で採集された (*Kishidaia*, (61):5) のものと同タイプでいずれも紀伊半島での記録である。日頃どこにでもいて個体数も比較的多いところからワキグロを「佃煮」呼ばわりしてきた筆者もこれなら紀伊半島特産のコレクターズ・アイテムとしてお薦め

DRAGLINES

きるなかなかの美しさ（緑と褐色のコントラスト良し）である。ただしアルコールにつけるとやがて退色するが…冗談はさておき本当に紀伊半島だけに見られる個体変異なのか他の場所で採集された方は是非名乗り出て下さい。

最後にワキグロサツマノミダマシばかり話題にする筆者をハラグロヒトダマシなどと呼ばれることのないように。

河原のハエトリグモの産卵

伴 満

厚木市を流れる相模川の河原にはアオオビハエトリ、チビクロハエトリの1種、シラホシコゲチャハエトリ、カタオカハエトリが飛び跳ねている。

アオオビハエトリは草地にも居るので河原のクモとは言えないが、後の3種は此処にしか見られない。

1996年5月中旬、これらのクモは産卵行動を取っており、こぶし大の石の下面の凹部に天幕を張りその中に入って産卵をして居る。チビクロハエトリの1種の卵は真珠の様な純白色で1囊の卵数は42、別の1囊は6月中旬に27匹の仔蜘蛛が出囊した。シラホシコゲチャハエトリの卵は橙々色で卵数は24と13であった。

カタオカハエトリの産卵行動はまだ確認していない。

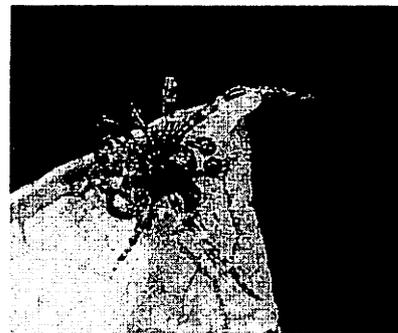
ムツトゲイセキグモの雄を採集

伴 満

1996年8月19日ムツトゲイセキグモを探して大川秀治さんのフィールド津久井の城山に案内された。そこで雌と一緒にいる雄を1頭発見したので採集した。

この蜘蛛は1994年7月の談話会の合宿地松田町やどろぎで採集したトゲグモの雄と併せて谷川先生に研究用として提供した。

雌の方は10月に産卵を終えてから標本として大川さんから提供して頂いた。



ムツトゲイセキグモ ♂ 体長約3mm

東京蜘蛛談話会 1993年度観察採集会報告

飯山観音のクモ

木村知之*・高橋祐子**

1993年の観察採集会は神奈川県厚木市飯山観音で行われた。

第1回目は先に本堂まで上がったが、採集があまりばつとせず、雑談に花が咲いてしまった場面もあったが、次回より金剛寺方面から登っていくコースをとったところ、非常にクモが多く、3時間経ってもまだ出発地点が見える場所にいるという状況だった。以後3回目と4回目も同様のコースをとり、主に金剛寺参道と墓地での採集となった。

観察採集日と参加者（敬称略）※姓のみ記録されている方もある。

第1回 1993.5.16.

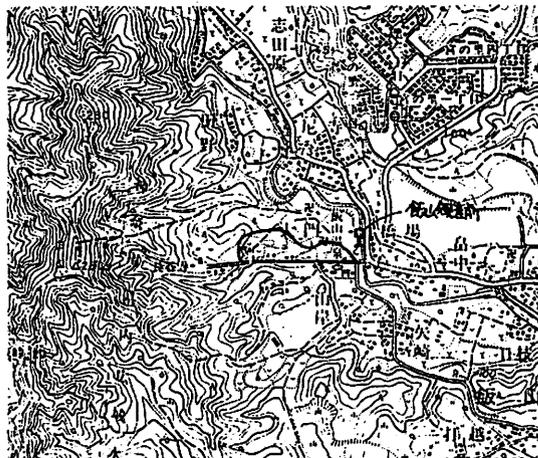
阿部代始子,池田博明,稲葉茂代,梅林 力,加藤むつみ,木村知之,久保田克哉,熊田憲一,笹岡文雄,貞元己良,ジャニス・スミス,新海 明,鈴木成生,諏訪哲夫,高橋 登,高橋祐子,田副幸子,谷川明男,長井芳夫,長島忠義,伴 満,平松毅久,牧原くみ子,本木洋子,安田明雄,和仁道大

第2回 1993.7.11.

阿部代始子,安田明雄,稲葉茂代,花岡雅子,笠原須磨生,久保田克哉,熊田憲一,笹岡文雄,柴田洋子,小澤實樹,新海 明,浅間 茂,大木きよみ,谷川明男,中島哨子,長井芳夫,塚本昌子,伴 満,平松毅久,木村知之,鈴木成生

第3回 1993.10.17.

阿部代始子,池田博明,笠原須磨生,加藤むつみ,木村知之,笹岡文雄,貞元己良,新海明,鈴木成生,谷川明男,伴 満,古浜 隆,和仁道大



*〒215 神奈川県川崎市麻生区東百合ヶ丘 4-38-12

**〒250 小田原市矢作 122-7



1993.10.17.



1993.2.27.

第4回 1994.2.27.

赤羽尚夫, 阿部代始子, 荒金泰子, 池田博明, 石川, 小川, 加藤むつみ, 木村知之, 久保田克哉, 小峰光弘, 貞元己良, 新海栄一, 高橋 登, 高橋祐子, 谷川明男, 伴 満, 平松毅久

目録および季別一覧

次ページからの目録は, 当日現地で同定されたものと採集した標本に基づいて後日同定されたものとを合わせて集計したものであるが, 目録中ではその区別はしていない。一覧に使用した記号は次のとおり。

M (雄成体), m (雄幼体), F (雌成体), f (雌幼体), y (性別不明幼体), e (卵のうち), n (巣), - (確認せず)。

		5月	7月	10月	2月
	Antrodiaetidae カネコトタテグモ科				
1	<i>Antrodiaetus roretzi</i> (L. KOCH, 1878)	カネコトタテグモ yn	n	Fy	n
	Ctenizidae トタテグモ科				
2	<i>Ummidia fragaria</i> (DÖNITZ, 1887)	キノボリトタテグモ y	?n	y	y
	Atypidae ジグモ科				
3	<i>Atypus karschi</i> DÖNITZ, 1887	ジグモ y	y	FMy	FMy
	Dictynidae ハグモ科				
4	<i>Lathys humilis</i> (BLACKWALL, 1855)	カレハグモ -	-	y	-
	Uloboridae ウズグモ科				
5	<i>Miagrammopes orientalis</i> BÖS. et STR., 1906	マネキグモ ?	F	y	y
6	<i>Octonoba sybotides</i> (BÖS. et STR., 1906)	カタハリウズグモ my	FMe	y	-
	O.Segestriidae エンマグモ科				
8	<i>Ariadna lateralis</i> (KARSCH, 1881)	ミヤグモ y	y	y	y
9	<i>Segestria nipponica</i> KISHIDA, 1913	コマツエンマグモ -	-	-	Fy
	Pholcidae ユウレイグモ科				
10	<i>Pholcus crypticolens</i> BÖS. et STR., 1906	ユウレイグモ Fy	FMe	FMy	FM
	Theridiidae ヒメグモ科				
11	<i>Achaeareana angulithorax</i> (BÖS. et STR., 1906)	ツリガネヒメグモ y	Fe	Fy	-
12	<i>A. culicivola</i> (BÖS. et STR., 1906)	カグヤヒメグモ -	FM	Fy	-
13	<i>A. japonica</i> (BÖS. et STR., 1906)	ヒメグモ y	y	Fye	
14	<i>A. kompirensis</i> (BÖS. et STR., 1906)	コンピラヒメグモ -	F	-	-
15	<i>A. tepidarium</i> (C. KOCH, 1841)	オオヒメグモ FMyn	Fe	FMy	y
16	<i>Anelosimus crassipes</i> (BÖS. et STR., 1906)	アシプトヒメグモ FMfy	-	y	y
17	<i>A. iwawakiensis</i> YOSHIDA, 1986	イワキアシプトヒメグモ M	-	-	-
18	<i>Argyrodes bonadea</i> (KARSCH, 1881)	シロカネイソウロウグモ y	F	Fy	-
19	<i>A. cylindratus</i> THORELL, 1889	トビジロイソウロウグモ y	y	y	-
20	<i>A. cylindrogaster</i> (SIMON, 1888)	オナガグモ y	Fm	y	y
21	<i>A. fissifrons</i> O. P.-CAMBRIDGE, 1869	チリイソウロウグモ -	my	Fe	my
22	<i>A. fur</i> BÖS. et STR., 1906	フタオイソウロウグモ FMfm	FMe	y	Fmy
23	<i>A. saganus</i> (DÖN. et STR., 1906)	ヤリグモ y	Fy	y	y
24	<i>Chrysso argyrodiformis</i> (YAGINUMA, 1952)	オダカグモ -	f	-	-
25	<i>C. punctifera</i> (YAGINUMA, 1960)	ホシミドリヒメグモ Fy	y	y	-
26	<i>C. venusta</i> (YAGINUMA, 1957)	コガネヒメグモ -	-	-	y
27	<i>Coleosoma octomaculatum</i> (BÖS. et STR.)	ヤホシヒメグモ -	-	-	y
28	<i>Dipoena castrata</i> BÖS. et STR., 1906	ボカシミジグモ y	-	-	y
29	<i>D. flavomarginata</i> BÖS. et STR., 1906	キベリミジグモ y	-	-	-
30	<i>D. japonica</i> (YOSHIDA, 1985)	ヤマトミジグモ F	-	-	-
31	<i>D. mustelina</i> (SIMON, 1888)	カニミジグモ -	-	-	My
32	<i>D. punctisparsa</i> YAGINUMA, 1967	シモフリミジグモ FM	F	f	-
33	<i>Enoplognatha transversifoveata</i> (BÖS. et STR., 1906)	カレハヒメグモ FM	F	Fy	Mfmy

		5月	7月	10月	2月	
34	<i>Episinus affinis</i> Bös. et STR., 1906	ヒシガタグモ	y	FM	y	y
35	<i>E. mirabilis</i> (Bös. et STR., 1906)	ハラナガヒシガタグモ	y	-	-	-
36	<i>E. nubilus</i> YAGINUMA, 1960	ムラクモヒシガタグモ	y	Fm	y	y
37	<i>Phoroncidia altiventris</i> YOSHIDA, 1985	ハラダカツクネグモ	FMf	F	f	-
38	<i>P. pilula</i> (KARSCH, 1879)	ツクネグモ	y	-	-	-
39	<i>Steatoda cavernicola</i> (Bös. et STR., 1906)	ハンゲツオスナキグモ	?	F	-	-
40	<i>Stemmops nipponicus</i> YAGINUMA, 1969	スネグロオチバヒメグモ	-	F	-	y
41	<i>Theridion chikunii</i> YAGINUMA, 1960	バラギヒメグモ	FM	?	Fy	y
42	<i>T. latifolium</i> YAGINUMA, 1960	ヒロハヒメグモ	MY	-	y	y
43	<i>T. pinastri</i> L. KOCH, 1872	ムナグロヒメグモ	-	-	-	y
44	<i>T. rapulum</i> YAGINUMA, 1960	キボシヒメグモ	y	FMy	y	y
45	<i>T. sterninotatum</i> Bös. et STR., 1906	ムナボシヒメグモ	FMy	Fe	Fy	Fy
46	<i>T. subadultum</i> Bös. et STR., 1906	コケヒメグモ	FM	Fe	y	y
	Linyphiidae	サラグモ科				
47	<i>Arcuphantes tamaensis</i> (OI, 1960)	タマヤミサラグモ	FM	-	-	-
48	<i>Asperthorax communis</i> OI, 1960	ザラアカムネグモ	F	-	-	FM
49	<i>Bathyphantes tateyamaensis</i> (OI, 1960)	タテヤマテナガグモ	-	F	-	-
50	<i>Doenitzius pruvus</i> OI, 1960	コデーニッツサラグモ	F	-	-	-
51	<i>Floronia bucculenta</i> (CLERCK, 1758)	ハナサラグモ	-	f	F	-
52	<i>Gonatium japonicum</i> SIMON, 1894	ヤマトケズネグモ	-	-	-	FM
53	<i>Labulla contortipes</i> (KARSCH, 1881)	アシヨレグモ	Ff	yn	FMy	FMy
54	<i>Linyphia fusca</i> (OI, 1960)	クスミサラグモ	M	?	My	-
55	<i>L. longipedella</i> Bös. et STR., 1906	アシナガサラグモ	-	y	-	-
56	<i>L. nigripectoides</i> (OI, 1960)	ムネグロサラグモ	-	-	y	-
57	<i>L. oidedicata</i> (HELSDINGEN, 1969)	ヘリジロサラグモ	-	FM	F	y
58	<i>L. yunohamensis</i> Bös. et STR., 1906	ユノハマサラグモ	Ff	-	y	y
59	<i>Nematogmus sanguinolentus</i> (WALCKENAER, 1837)	チビアカサラグモ	Fm	-	F	-
60	<i>Ummeliata feminea</i> (Bös. et STR., 1906)	アトグロアカムネグモ	-	FM	-	-
61	<i>Walckenaeria mira</i> (OI, 1960)	テングヌカグモ	M	-	-	FM
	Mimetidae	センシヨウグモ科				
62	<i>Ero japonica</i> Bös. et STR., 1906	センシヨウグモ	y	FMe	Fye	ye
	Theridiosomatidae	カラカラグモ科				
63	<i>Ogulnius pullus</i> Bös. et STR., 1906	ヤマジグモ	y	F	-	-
64	<i>Theridiosoma epeiroides</i> Bös. et STR., 1906	カラカラグモ	-	F	-	-
65	<i>Wendilgarda</i> sp.	ナルコグモ	-	Fe	-	-
	Anapidae	ヨリメグモ科				
66	<i>Conoculus lyugadinus</i> KOMATSU, 1940	ヨリメグモ	y	y	-	-
	Mysmenidae	コツブグモ科				
67	<i>Mysmenella jobi</i> (KRAUS, 1967)	ナンブコツブグモ	Fy	?	F	y

5月 7月 10月 2月

Araneidae コガネグモ科

68	<i>Acusilas coccineus</i> SIMON, 1895	ハツリグモ	fy	F	y	-
69	<i>Arachnura logio</i> YAGINUMA, 1956	キジロオヒキグモ	-	-	y	-
70	<i>Araneus abscissus</i> (KARSCH, 1879)	キザハシオニグモ	-	y	-	-
71	<i>A. fuscocoloratus</i> (BÖS. et STR., 1906)	ヤミイロオニグモ	F	-	-	-
72	<i>A. macacus</i> UYEMURA, 1961	ヤエンオニグモ	-	-	y	y
73	<i>A. mitificus</i> (SIMON, 1886)	ビジョオニグモ	-	y	F	-
74	<i>A. pentagrammicus</i> (KARSCH, 1879)	アオオニグモ	Ffy	-	y	y
75	<i>A. semilunaris</i> (KARSCH, 1879)	マルツメオニグモ	-	FM	y	-
76	<i>A. ventricosus</i> (L. KOCH, 1878)	オニグモ	fy	y	y	-
77	<i>A. viperifer</i> SCHENKEL, 1963	カラオニグモ	FM	-	m	y
78	<i>A. viridiventris</i> YAGINUMA, 1969	ハラピロミドリオニグモ	-	-	-	y
79	<i>Argiope amoena</i> L. KOCH, 1878	コガネグモ	-	Fy	-	-
80	<i>A. boesenbergi</i> LEVI, 1983	チュウガタコガネグモ	fy	-	-	-
81	<i>A. bruennichii</i> (SCOPOLI, 1772)	ナガコガネグモ	-	y	F	-
82	<i>A. minuta</i> KARSCH, 1879	コガタコガネグモ	y	y	Fe	-
83	<i>Chorizopes nipponicus</i> YAGINUMA, 1963	ヤマトカナエグモ	-	-	y	-
84	<i>Cyclosa argenteoalba</i> BÖS. et STR., 1906	ギンメッキゴミグモ	Fmy	y	Fy	-
85	<i>C. monticola</i> BÖS. et STR., 1906	ヤマゴミグモ	M	-	-	-
86	<i>C. octotuberculata</i> KARSCH, 1879	ゴミグモ	FM	F	y	y
87	<i>C. sedeculata</i> KARSCH, 1879	ヨツデゴミグモ	FM	F	my	fm
88	<i>Cyrtarachne bufo</i> (BÖS. et STR., 1906)	トリノフンダマシ	ye	-	-	-
89	<i>C. inaequalis</i> THORELL, 1895	オオトリノフンダマシ	-	y	F	-
90	<i>C. nagasakiensis</i> STRAND, 1918	シロオビトリノフンダマシ	-	y	-	-
91	<i>C. yunoharuensis</i> STRAND, 1918	アカイロトリノフンダマシ	-	y	-	-
92	<i>Hyposinga sanguinea</i> (C. KOCH, 1844)	シロスジショウジョウグモ	FMy	My	y	my
93	<i>Neoscona mellottei</i> (SIMON, 1895)	ワキグロサツマノミダマシ	-	y	F	-
94	<i>N. nautica</i> (L. KOCH, 1875)	イエオニグモ	-	F	-	-
95	<i>N. scylla</i> (KARSCH, 1879)	ヤマシロオニグモ	y	y	-	y
96	<i>N. scylloides</i> (BÖS. et STR., 1906)	サツマノミダマシ	y	y	-	-
97	<i>Yaginumia sia</i> (STRAND, 1906)	ズグロオニグモ	-	y	y	-
98	<i>Zilla astridae</i> (STRAND, 1917)	サガオニグモ	Fy	-	-	-
99	<i>Z. sachalinensis</i> (S. SAITO, 1934)	カラフトオニグモ	FMfy	-	y	-

Tetragnathidae アシナガグモ科

100	<i>Leucauge magnifica</i> YAGINUMA, 1954	オオシロカネグモ	y	M	-	-
101	<i>L. subblanda</i> BÖS. et STR., 1906	コシロカネグモ	FMf	FM	y	-
102	<i>L. subgemmea</i> BÖS. et STR., 1906	キララシロカネグモ	-	FM	y	-
103	<i>Metleucauge yunohamensis</i> (BÖS. et STR., 1906)	メガネドヨウグモ	Fy	-	y	y
104	<i>Nephila clavata</i> L. KOCH, 1878	ジョロウグモ	-	f	FM	e
105	<i>Tetragnatha praedonia</i> L. KOCH, 1878	アシナガグモ	FMfy	Fy	y	y

		5月	7月	10月	2月	
106	<i>T. squamata</i> KARSCH, 1879	ウロコアシナガグモ	FMy	Fe	-	y
107	<i>T. vermiformis</i> EMERTON, 1884	シコクアシナガグモ	-	-	y	-
	Urocteidae	ヒラタグモ科				
108	<i>Uroctea compactilis</i> L. KOCH, 1878	ヒラタグモ	Fy	Fy	Fy	Fy
	Agelenidae	タナグモ科				
109	<i>Agelena limbata</i> THORELL, 1879	クサグモ	y	y	ye	y
110	<i>A. opulenta</i> L. KOCH, 1878	コクサグモ	y	y	FM	-
111	<i>Coelotes corasides</i> (BÖS. et STR., 1906)	ヤマヤチグモ	-	y	f	F
112	<i>C. insidiosus</i> L. KOCH, 1878	シモフリヤチグモ	M	-	-	FM
113	<i>C. luctuosus</i> L. KOCH, 1878	メガネヤチグモ	n	y	Fy	F
114	<i>Cybaeus nipponicus</i> (UYEMURA, 1938)	カチドキナミハグモ	-	-	F	-
	Hahnidae	ハタケグモ科				
115	<i>Hahnia corticicola</i> BÖS. et STR., 1906	ハタケグモ	FM	-	-	y
	Pisauridae	キシダグモ科				
116	<i>Dolomedes sulfureus</i> L. KOCH, 1878	イオウイロハシリグモ	y	y	Fy	y
117	<i>Pisaura lama</i> BÖS. et STR., 1906	アズマキシダグモ	FM	y	y	f
	Lycosidae	コモリグモ科				
118	<i>Arctosa ebicha</i> YAGINUMA, 1960	エビチャコモリグモ	Fe	-	M	-
119	<i>A. fujii</i> TANAKA, 1985	フジイコモリグモ	M	-	y	y
120	<i>Pardosa astrigera</i> L. KOCH, 1878	ウツキコモリグモ	-	F	y	y
121	<i>P. brevivulva</i> TANAKA, 1975	ヤマハリゲコモリグモ	M	F	-	FM
122	<i>P. laura</i> KARSCH, 1879	ハリゲコモリグモ	m	FM	y	y
123	<i>Pirata procurvus</i> (BÖS. et STR., 1906)	チビコモリグモ	-	FM	-	-
124	<i>P. tanakai</i> BRIGNOLI, 1983	コガタコモリグモ	-	FM	-	-
	Oxyopidae	ササグモ科				
125	<i>Oxyopes sertatus</i> L. KOCH, 1878	ササグモ	y	FMm	y	y
	Clubionidae	フクログモ科				
126	<i>Chiracanthium eutittha</i> BÖS. et STR., 1906	アシナガコマチグモ	y	-	-	-
127	<i>C. japonicum</i> BÖS. et STR., 1906	カバキコマチグモ	y	M	-	-
128	<i>C. lascivum</i> KARSCH, 1879	ヤマトコマチグモ	-	Fe	-	-
129	<i>Clubiona japonica</i> L. KOCH, 1878	ヤマトフクログモ	F	y	-	-
130	<i>C. jucunda</i> (KARSCH, 1879)	ヤハズフクログモ	y	-	-	f
131	<i>C. kurilensis</i> BÖS. et STR., 1906	ヒメフクログモ	F	-	-	-
132	<i>C. lena</i> BÖS. et STR., 1906	トビイロフクログモ	F	-	-	-
133	<i>C. rostrata</i> PAIK, 1985	マイコフクログモ	F	-	-	-
134	<i>C. vigil</i> KARSCH, 1879	ムナアカフクログモ	y	M	-	FMy
135	<i>C. yaginumai</i> HAYASHI, 1989	ヤギヌマフクログモ	fm	FM	-	-
136	<i>Itatsina praticola</i> (BÖS. et STR., 1906)	イタチグモ	-	F	y	-
137	<i>Phrurolithus coreanus</i> PAIK, 1991	キレオビウラシマグモ	-	-	-	y
138	<i>P. komurai</i> YAGINUMA, 1952	コムラウラシマグモ	-	-	FM	-

		5月	7月	10月	2月	
139	<i>P. nipponicus</i> KISHIDA, 1914	ウラシマグモ	Mf	FMy	y	y
140	<i>P. pennatus</i> YAGINUMA, 1969	ヤバネウラシマグモ	y	FMm	-	-
141	<i>Trachelas japonicus</i> BÖS. et STR., 1906	ネコグモ	FM	-	y	y
	Anyphaenidae	イツツグモ科				
142	<i>Anyphaena pugil</i> KARSCH, 1879	イツツグモ	-	-	-	Fy
	Ctenidae	シボグモ科				
143	<i>Anahita fauna</i> KARSCH, 1879	シボグモ	m	FMy	-	y
	Heteropodidae	アシダカグモ科				
144	<i>Heteropoda forcipata</i> (KARSCH, 1881)	コアシダカグモ	my	-	y	Fmy
	Gnaphosidae	ワシグモ科				
145	<i>Drassodes serratidens</i> SCHENKEL, 1963	トラフワシグモ	f	-	-	-
146	<i>Gnaphosa kompirensis</i> BÖS. et STR., 1906	メキリグモ	y	M	-	-
147	<i>G. potanini</i> SIMON, 1895	モリメキリグモ	M	-	-	-
148	<i>Herpyllus anatolicus</i> KAMURA, 1989	ナミトンビグモ	-	F	-	-
	Thomisidae	カニグモ科				
149	<i>Bassaniana decorata</i> (KARSCH, 1879)	キハダカニグモ	-	-	F	y
150	<i>Diaea subdola</i> O. P.-CAMBRIDGE, 1885	コハナグモ	my	FM	y	
151	<i>Lysiteles coronatus</i> (GRUBE, 1861)	アマギエビスグモ	y	-	-	y
152	<i>Misumenops kumadai</i> ONO, 1985	クマダハナグモ	-	-	-	y
153	<i>M. tricuspidatus</i> (FABRICIUS, 1775)	ハナグモ	My	M	M	y
154	<i>Oxyptila matsumotoi</i> ONO, 1988	マツモトオチバカニグモ	-	M	-	-
155	<i>O. nipponica</i> ONO, 1985	オチバカニグモ	y	-	-	-
156	<i>Oxytate striatipes</i> L. KOCH, 1878	ワカバグモ	FM	Ff	F	f
157	<i>Pistius undulatus</i> KARSCH, 1879	ガザミグモ	-	-	y	-
158	<i>Thomisus labefactus</i> KARSCH, 1881	アズチグモ	y	y	y	-
159	<i>Tmarus piger</i> (WALCKENAER, 1802)	トラフカニグモ	fy	-	y	-
160	<i>T. rimosus</i> PAIK, 1973	セマルトラフカニグモ	y	Fy	y	m
161	<i>Xysticus croceus</i> FOX, 1937	ヤミイロカニグモ	FMy	Fe	y	y
162	<i>X. ephippiatus</i> SIMON, 1880	シナカニグモ	-	-	y	-
163	<i>X. saganus</i> BÖS. et STR., 1906	オオヤミイロカニグモ	F	-	-	-
	Philodromidae	エビグモ科				
164	<i>Philodromus auricomus</i> L. KOCH, 1878	キンイロエビグモ	y	-	-	y
165	<i>P. spinatarsis</i> SIMON, 1895	キハダエビグモ	-	-	Fe	y
166	<i>P. subaureolus</i> BÖS. et STR., 1906	アサヒエビグモ	y	F	y	y
167	<i>Tibellus tenellus</i> (L. KOCH, 1876)	シャコグモ	-	-	-	FM
	Salticidae	ハエトリグモ科				
168	<i>Aelurillus festivus</i> (L. KOCH, 1834)	ヤマジハエトリ	-	y	-	-
169	<i>Carrhotus xanthogramma</i> (LATREILLE, 1819)	ネコハエトリ	FM	-	f	f
170	<i>Euophrys kataokai</i> IKEDA, 1996	カタオカハエトリ	-	f	-	-

		5月	7月	10月	2月
171 <i>Evarcha albaria</i> (L. KOCH, 1878)	マミジロハエトリ	FMmy	FM	-	-
172 <i>Harmochirus brachiatus</i> (THORELL, 1877)	ウデプトハエトリ	?	F	F	-
173 <i>H. pullus</i> (BÖS. et STR., 1906)	キレワハエトリ	-	F	-	-
174 <i>Helicius cylindratus</i> (KARSCH, 1879)	コジャバラハエトリ	y	-	-	-
175 <i>Laufeia aenea</i> SIMON, 1888	エクスハエトリ	-	-	-	y
176 <i>Marpissa pulla</i> (KARSCH, 1879)	ヨダンハエトリ	FM	F	m	y
177 <i>Myrmarachne innermichelis</i> BÖS. et STR., 1906	ヤサアリグモ	F	-	-	-
178 <i>M. japonica</i> (KARSCH, 1879)	アリグモ	FMmy	F	y	y
179 <i>Phintella abnormis</i> (BÖS. et STR., 1906)	チャイロアサヒハエトリ	y	-	y	y
180 <i>Plexippoides doentzi</i> (KARSCH, 1879)	デーニッツハエトリ	FM	y	M	-
181 <i>P. setipes</i> KARSCH, 1879	ミスジハエトリ	-	-	F	-
182 <i>Pseudicius vulpes</i> (GRUBE, 1861)	イナズマハエトリ	F	y	-	-
183 <i>Rhene atrata</i> (KARSCH, 1881)	カラスハエトリ	y	?	-	y
184 <i>R. sp.</i>	ヒメカラスハエトリ	-	M	-	-
185 <i>Silerella vittata</i> (KARSCH, 1879)	アオオビハエトリ	y	F	-	-
186 <i>Yaginumaella ususudi</i> (YAGINUMA, 1972)	ウススジハエトリ	-	-	-	y
187 <i>Yaginumanis sexdentatus</i> (YAGINUMA, 1967)	ムツバハエトリ	-	F	Fy	

参考文献

熊田憲一・池田博明・谷川明男, 1995. 神奈川県産クモ類目録. *Kishidaia*, (68)

東京蜘蛛談話会 1994 年度合宿報告

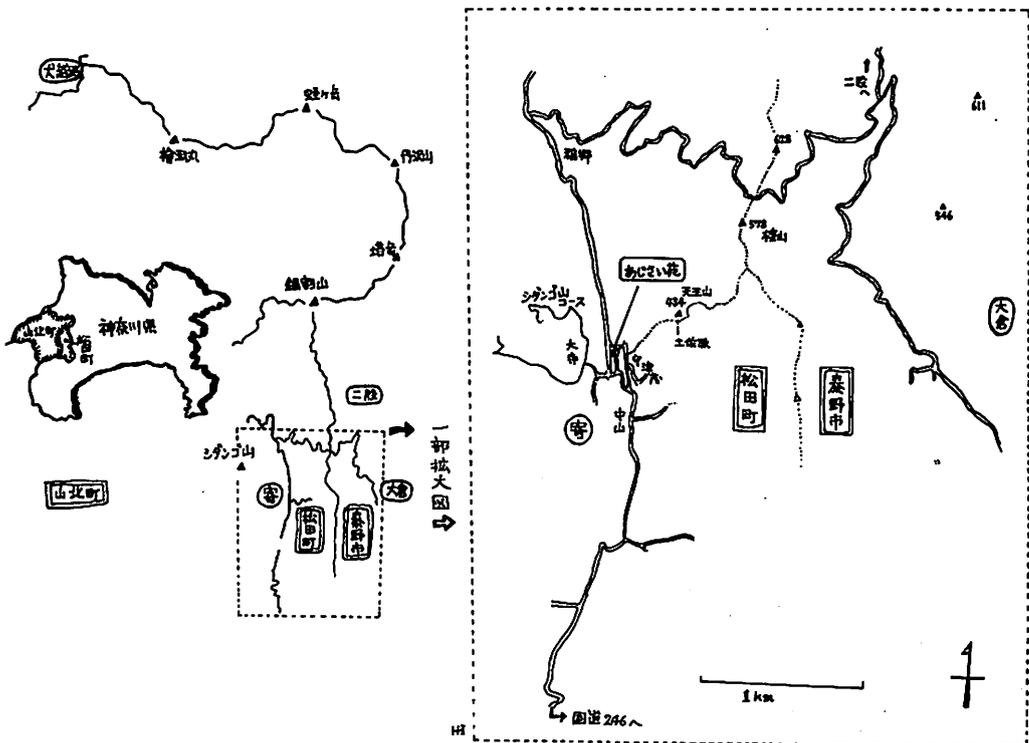
丹沢のクモ（松田町寄，秦野市二股・大倉，桧洞丸）

池田博明

1994年度の談話会合宿は、1994年7月23日（土）・24日（日）・25日（月）の2泊3日、神奈川県足柄上郡松田町寄（やどりぎ）の自然休養村を中心に行なった。ここは小田急線新松田駅からバスで約40分、交通の便はよく、川あり、山あり、森ありの家族向け自然休養村である。登山路から丹沢の一角、鍋割山の尾根筋に登ることも可能な場所である。

経費節減のため、民宿「あじさい苑」を宿舎とした。食事は付かない。自炊も可能だったが、23日の夜に野外バーベキューをした他は、新松田駅前の寿司店やコンビニエンス・ストア、駅弁店等に注文しておいた食事で間に合わせた。

採集観察地は以下の図の通りであった。23日の午後はシダング山コースの途中まで、23日の夜は天王山までのコース。24日はほぼ天王山から途中の鉄塔までのコースで、梅林・久保田・千田・阿部の各氏は櫛山まで登った。新海（栄）・貞元・山川の各氏は車で西丹沢の桧洞丸入口や犬越路等を採集した。24日の夜はシダング山コース、25日の午前には塔の峰への登山口である二股周辺で採集した後、秦野市の大倉で昼食、周辺で観察の後、解散した。



参加者 (50音順)

赤羽尚夫, 浅間茂, 阿部代始子, 池田博明, 泉宏子, 泉千陽, 梅林力, 笠原喜久雄, 加藤輝代子, 加藤倫之, 加藤むつみ, 久保田克哉, 貞元己良, 佐藤幸子, 新海明, 新海栄一, 鈴木成生, 高橋登, 千田高史, 長井芳夫, 伴満, 平松毅久, 古浜隆, 山川守, 安田明雄 (25名), ほか 関東学院中等部生

採集観察されたクモ 162 種は以下の通りであった。これらはできるだけ現地で同定した。必要に応じて実体顕微鏡を用いた。また一部の不明種は標本を持ち帰って同定した。合宿後に当地で加藤むつみ氏が採集された種, クロケシグモ (1995年7月10日採集, 7月17日成体) とカマクラテングヌカグモ (1995年3月28日採集) を追加した。

現地での同定および丹沢大山学術総合調査の段取りをして下さった新海栄一氏, カニグモの一部を同定して下さい下さった小野展嗣氏, サラグモの一部を同定して下さい下さった田副幸子氏, 同定記録を寄せて下さった貞元己良・新海明各氏, 採集標本を提供して下さい下さった阿部代始子・梅林力・笠原喜久雄・加藤輝代子・加藤むつみ・久保田克哉・佐藤幸子・鈴木成生・千田高史・古浜隆各氏に感謝する。

稀産種としては, トゲグモの雌雄 (シダング山コース途中のクリ林), キジロオヒキグモの雄 (櫛山へ登る途中) が挙げられる。またサザナミサラグモは神奈川県初記録である。生態的に興味深い例として, 次の6例をあげる。

- (1) オナガグモの出のう幼体が列を作って分散していた
- (2) マネキグモの出のう幼体の分散が見られた
- (3) トゲグモの雌の網への雄の同居があった
- (4) チリイソウロウグモの雌雄同居があった
- (5) ムナグロヒメグモの雌雄が観察された
- (6) コアシダカグモの卵のうガードが観察された

目 録

目録中の略字の意味は下記の通り。

令の表記 ; F: Female adult (メス成体), M: Male adult (オス成体), f: female subadult (メス亜成体), m: male subadult (オス亜成体), n: nymph (幼体), y: young after ecdysis (出のう幼体), e: egg cocoon (卵のう)。

採集地の表記 ; シ: 寄・シダング山, 天: 寄・天王山, 二: 秦野市二股, 檢: 西丹沢・檢洞丸

	ジグモ科	Atypidae	
1. ジグモ	<i>Atypus karschi</i>	y	二
	ウズグモ科	Uloboridae	
2. マネキグモ	<i>Miagrammopes orientalis</i>	Fney	シ, 天
3. カタハリウズグモ	<i>Octonoba sybotides</i>	Ffy	二, シ, 天, 櫛山
	エンマグモ科	Segestridae	
4. ミヤグモ	<i>Ariadna lateralis</i>	Fn	シ

	ユウレイグモ科	Pholcidae	
5. ユウレイグモ	<i>Pholcus crypticolens</i>	FMe	シ, 櫛山
	ヒメグモ科	Theridiidae	
6. ツリガネヒメグモ	<i>Achaearanea angulithorax</i>	Fy	ニ, シ, 天
7. カグヤヒメグモ	<i>Achaearanea culicivora</i>	FMe	ニ, シ, 天, 櫛山
8. ヒメグモ	<i>Achaearanea japonica</i>	FMfn	ニ, シ, 櫛山, 天
9. オオツリガネヒメグモ	<i>Achaearanea tabulata</i>	F	シ
10. オオヒメグモ	<i>Achaearanea tepidariorum</i>	FMeyn	ニ, シ, 天, 櫛山, 犬2
11. オナガグモ	<i>Argyrodes cylindrogaster</i>	Fney	ニ, シ, 天
12. チリイソウロウグモ	<i>Argyrodes fissifrons</i>	FM	シ, 天
13. フタオイソウロウグモ	<i>Argyrodes fur</i>	Fe	シ, 天
14. ヤリグモ	<i>Argyrodes saganus</i>	FMmny	ニ, シ, 天, 櫛山, 桧
15. ホシミドリヒメグモ	<i>Chryso punctifera</i>	n	ニ, 天, シ, 桧
16. ギボシヒメグモ	<i>Chryso rapulum</i>	n	シ, 犬
17. コガネヒメグモ	<i>Chryso venusta</i>	Fey	ニ, シ, 桧
18. ボカシミジグモ	<i>Dipoena castrata</i>	F	ニ, 天, 犬2
19. カニミジグモ	<i>Dipoena mustelina</i>	FMny	天, 櫛山, シ, 犬, 犬2, 桧
20. コアカクロミジグモ	<i>Dipoena mutilata</i>	F	シ
21. シモフリミジグモ	<i>Dipoena punctisparsa</i>	Fny	天, 櫛山, シ
22. ヒシガタグモ	<i>Episinus affinis</i>	y	櫛山
23. ムラクモヒシガタグモ	<i>Episinus nubilus</i>	FM	天, シ
24. ハラナガヒシガタグモ	<i>Moneata caudifer</i>	F	ニ, 桧
25. ツクネグモ	<i>Phoroncidia pilula</i>	F	シ
26. クロマルイソウロウグモ	<i>Spheropistha melanosoma</i>	Fe	ニ
27. バラギヒメグモ	<i>Theridion chikunii</i>	Fe	ニ, シ
28. ムナグロヒメグモ	<i>Theridion pinastri</i>	FMe	シ, 櫛山, 天
29. ムナボシヒメグモ	<i>Theridion sterninotatum</i>	Fny	シ, 天
30. コケヒメグモ	<i>Theridion subadultum</i>	Fe	シ
31. タカユヒメグモ	<i>Theridion takayense</i>	F	シ, 犬
	ホラヒメグモ科	Nesticidae	
32. コホラヒメグモ	<i>Nesticus brevipes</i>	F	桧
	サラグモ科	Linyphidae	
33. コサラグモ	<i>Aprifrontalia mascula</i>	FM	犬
34. タマヤミサラグモ	<i>Arcuphantes tamaensis</i>	FM	シ
35. ハシグロナンキングモ	<i>Erigonidium nigriterminorum</i>	F	犬
36. クスミサラグモ	<i>Linyphia fusca</i>	ny	ニ, シ, 天
37. シバサラグモ	<i>Linyphia herbosa</i>	n	天
38. ツリサラグモ	<i>Linyphia japonica</i>	Fny	ニ, 天
39. フタスジサラグモ	<i>Linyphia limbatinella</i>	n	櫛山, 天
40. アシナガサラグモ	<i>Linyphia longipedella</i>	FMfm	ニ, 天, 犬, 桧
41. ムネグロサラグモ	<i>Linyphia nigripectoides</i>	Fn	ニ, 櫛山, シ, 犬, 犬2, 桧

42. ヘリジロサラグモ	<i>Linyphia oidedicata</i>	FMf	シ, 天
43. サラグモ sp.	<i>Linyphia</i> sp.	F	櫟山
44. ユノハマサラグモ	<i>Linyphia yunohamensis</i>	n	天, シ
45. クロケシグモ	<i>Meioneta nigra</i>	f	シ
46. チビアカサラグモ	<i>Nematogmus sanguinolentus</i>	FMy	宿, シ, 天
47. ヨツボシサラグモ	<i>Strandella quadrimaculata</i>	n	二, 櫟山, 犬, 犬2, 桧
48. サザナミサラグモ	<i>Strandella fluctimaculata</i>	F	犬2
49. アカムネグモ sp.	<i>Ummeliata</i> sp.	M	櫟山
50. カマクラテングヌカグモ	<i>Walckenaeria kamakuraensis</i>		シ
センショウグモ科 Mimetidae			
51. センショウグモ	<i>Ero japonica</i>	Fe	二, シ, 天, 櫟山
52. オオセンショウグモ	<i>Mimetus testaceus</i>	n	二
カラカラグモ科 Theridiosomatidae			
53. ヤマジグモ	<i>Ogulnius pullus</i>	Fey	宿, 二, 天
54. カラカラグモ	<i>Theridiosoma epeiroides</i>	Men	二, 桧
コガネグモ科 Araneidae			
55. ハツリグモ	<i>Acusilas coccineus</i>	Fyn	シ, 天
56. キジロオヒキグモ	<i>Arachnura logio</i>	M	櫟山
57. キザハシオニグモ	<i>Araneus abscissus</i>	n	シ
58. ヌサオニグモ	<i>Araneus ejusmodi</i>	F	天, シ
59. イシサワオニグモ	<i>Araneus ishisawai</i>	Ffmy	二, シ, 天, 櫟山, 犬2
61. ヤエンオニグモ	<i>Araneus macacus</i>	yn	天, シ, 犬2
62. ビジョオニグモ	<i>Araneus mitificus</i>	yn	二, シ, 天
63. アオオニグモ	<i>Araneus pentagrammicus</i>	FMn	シ, 天, 櫟山
64. トガリオニグモ	<i>Araneus pseudocentroides</i>	FfMmn	シ, 天
65. マルツメオニグモ	<i>Araneus semilunaris</i>	F	天
66. ヤミイロオニグモ	<i>Araneus</i> sp.	Fn	二, シ
67. ヤマオニグモ	<i>Araneus uyemurai</i>	M	櫟山
68. オニグモ	<i>Araneus ventricosus</i>	F	シ
69. カラオニグモ	<i>Araneus viperifer</i>	n	桧
70. ハラヒロミドリオニグモ	<i>Araneus viridiventris</i>	n	シ
71. ムツボシオニグモ	<i>Araniella yaginumai</i>	Fn	櫟山, 天, シ, 犬
72. コガネグモ	<i>Argiope amoena</i>	F	天, シ
73. ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichii</i>	Mfmn	シ, 天, 櫟山
74. チュウガタコガネグモ	<i>Argiope bosenbergi</i>	F	シ
75. コガタコガネグモ	<i>Argiope minuta</i>	n	シ, 天, 櫟山
76. ヤマトカナエグモ	<i>Chorizopes nipponicus</i>	e	シ, 天
77. ギンメッキゴミグモ	<i>Cyclosa argenteoalba</i>	FMy	二, シ, 天
78. カギツメカラスゴミグモ	<i>Cyclosa hamulata</i>	FM	二, 櫟山, 桧
79. ヤマトゴミグモ	<i>Cyclosa japonica</i>	F	櫟山
80. クマダギンナゴミグモ	<i>Cyclosa kumadai</i>	FfMn	二, シ, 犬2, 桧

81. キジロゴミグモ	<i>Cyclosa laticauda</i>	Fe	二
82. ゴミグモ	<i>Cyclosa octoberculata</i>	Fey	シ, 天
83. ヨツデゴミグモ	<i>Cyclosa sedeculata</i>	Fnye	二, シ, 天, 櫛山, 檢
84. トリノフンダマシ	<i>Cyrtarachne bufo</i>	FfM	シ, 天
85. オオトリノフンダマシ	<i>Cyrtarachne inaequalis</i>	FMn	二, シ, 天
86. シロオビトリノフンダマシ	<i>Cyrtarachne nagasakiensis</i>	Ff	シ
87. トゲグモ	<i>Gasteracantha kuhlii</i>	FM	シ
88. ワキグロサツマノミダマシ	<i>Neoscona mellotteei</i>	fmn	二, シ, 天
89. イエオニグモ	<i>Neoscona nautica</i>	F	シ
90. コゲチャオニグモ	<i>Neoscona punctigera</i>	fn	シ, 天, 櫛山
91. ヤマシロオニグモ	<i>Neoscona scylla</i>	FMe	シ, 天, 櫛山
92. サツマノミダマシ	<i>Neoscona scylloides</i>	FMn	シ, 天, 犬2
93. ゲホウグモ	<i>Polys illepidus</i>	Fn	二, シ
94. ズグロオニグモ	<i>Yaginumia sia</i>	ny	シ, 天
95. カラフトオニグモ	<i>Zilla sacchalinensis</i>	Fny	二, 天, 櫛山, シ, 檢
アシナガグモ科 Tetragnathidae			
96. オオシロカネグモ	<i>Leucauge magnifica</i>	FfM	二, シ, 天
97. コシロカネグモ	<i>Leucauge subblanda</i>	FM	二, 天, シ, 檢
98. キララシロカネグモ	<i>Leucauge subgemmea</i>	Fn	二, シ, 天
99. キンヨウグモ	<i>Menosira ornata</i>	n	二, 天, シ, 犬2, 檢
100. ヤマジドヨウグモ	<i>Meta reticuloides</i>	FMny	二, シ, 檢
101. タニマノドヨウグモ	<i>Metleucauge kompirensis</i>	F	二, シ, 天
102. メガネドヨウグモ	<i>Metleucauge yunohamensis</i>	Fn	天, 犬, 檢
103. ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i>	ny	シ, 天
104. ヤサガタアシナガグモ	<i>Tetragnatha maxillosa</i>	FM	天
105. アシナガグモ	<i>Tetragnatha praedonia</i>	FMny	シ, 天, 檢
106. ウロコアシナガグモ	<i>Tetragnatha squamata</i>	n	二, シ
ヒラタグモ科 Urocteidae			
107. ヒラタグモ	<i>Uroctea compactilis</i>	n	シ, 天
タナグモ科 Agelenidae			
108. クサグモ	<i>Agelena limbata</i>	FfMn	二, シ, 天, 犬2
109. コクサグモ	<i>Agelena opulenta</i>	n	二, シ, 天, 櫛山, 犬
110. ヤマヤチグモ	<i>Coelotes corasides</i>	fn	二
111. ヤチグモ	<i>Coelotes exitialis</i>	F	二
ササグモ科 Oxyopidae			
112. ササグモ	<i>Oxyopes sertatus</i>	Fe	天, シ
コモリグモ科 Lycosidae			
113. ハリゲコモリグモ	<i>Pardosa laura</i>	FMne	二, 天, 檢
114. ハリゲコモリグモ sp.	<i>Pardosa sp.</i>	FMeyn	櫛山
115. キシベコモリグモ	<i>Pardosa yaginumai</i>	Fn	宿, シ
116. コガタコモリグモ	<i>Pirata tanakai</i>	Fe	櫛山

	キシダグモ科	Pisauridae	
117.	アオグロハシリグモ <i>Dolomedes raptor</i>	Fn	天, シ, 桧
118.	スジアカハシリグモ <i>Dolomedes saganus</i>	n	シ
119.	イオウイロハシリグモ <i>Dolomedes sulfreus</i>	Fny	シ, 天
120.	アズマキシダグモ <i>Pisaura lama</i>	F	二
	フクログモ科	Clubionidae	
121.	カバキコマチグモ <i>Chiracanthium japonicum</i>	FMne	二, シ
122.	ヤマトフクログモ <i>Clubiona japonica</i>	Fe	天
123.	トビイロフクログモ <i>Clubiona lena</i>	n	シ
124.	ムナアカフクログモ <i>Clubiona vigil</i>	F	櫛山
125.	イタチグモ <i>Itatsina praticola</i>	y	天
126.	キレオビウラシマグモ <i>Phrurolithus coreanus</i>	F	宿
127.	コムラウラシマグモ <i>Phrurolithus komurai</i>	fn	宿
128.	ヤバネウラシマグモ <i>Phrurolithus pennatus</i>	F	櫛山
	ワシグモ科	Gnaphosidae	
129.	メキリグモ <i>Gnaphosa kompirensis</i>	F	シ
	シボグモ科	Ctenidae	
130.	シボグモ <i>Anahita fauna</i>	f	天
	アシダカグモ科	Heteropodidae	
131.	コアシダカグモ <i>Heteropoda forcipata</i>	FMne	天, 櫛山, シ
	カニグモ科	Thomisidae	
132.	コハナグモ <i>Diaea subdola</i>	Ffn	二, 櫛山, 天
133.	アマギエビスグモ <i>Lysteles coronatus</i>	Fn	二, 天, 櫛山, 犬2
134.	タカネエビスグモ <i>Lysteles mainus</i>	n	犬 (貞元同定)
135.	ハナグモ <i>Misumenops tricuspидatus</i>	Fn	シ, 犬2
136.	ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	n	二, シ, 天, 櫛山, 犬2, 桧
137.	ガザミグモ <i>Pistius undulatus</i>	Ff	櫛山, シ
138.	アズチグモ <i>Thomisus labefactus</i>	M	櫛山
139.	トラフカニグモ <i>Tmarus piger</i>	Mn	シ, 犬2
140.	セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>	FMn	二, シ, 天, 櫛山, 犬
141.	ヤミイロカニグモ <i>Xysticus croceus</i>	FMn	二, 宿, 天, 櫛山, 桧
142.	チシマカニグモ <i>Xysticus kurilensis</i>	fM	櫛山
	エビグモ科	Philodromidae	
143.	コガネエビグモ <i>Philodromus aureolus</i>	n	二
144.	キンイロエビグモ <i>Philodromus auricomus</i>	Fye	櫛山, 天
145.	アサヒエビグモ <i>Philodromus spinatarsis</i>	FMe	櫛山, 天
146.	ヤマトヤドカリグモ <i>Thanatus nipponicus</i>	n	天
147.	シャコグモ <i>Tibellus tenellus</i>	n	宿, シ
	ハエトリグモ科	Salticidae	
148.	ネコハエトリ <i>Carrhotus xanthogramma</i>	fn	二, シ
149.	マミジロハエトリ <i>Evarcha albaria</i>	FMn	シ, 櫛山, 天, 犬

150. ウデブトハエトリ	<i>Harmocuirus insulanus</i>	m	宿
151. コジャバラハエトリ	<i>Helicius cylindratus</i>	FM	ニ, 桧
152. ヤハズハエトリ	<i>Marpissa elongata</i>	n	シ
153. アリグモ	<i>Myrmarachne japonica</i>	F	シ, 天
154. チャイロアサヒハエトリ	<i>Phintella abnormis</i>	F	天
155. マガネアサヒハエトリ	<i>Phintella castriesiana</i>	F	天
156. メガネアサヒハエトリ	<i>Phintella linea</i>	n	ニ
157. デーニッツハエトリ	<i>Plexippoides doenitzi</i>	FMn	ニ, シ, 天, 桧
158. ミスジハエトリ	<i>Plexippus setipes</i>	FM	シ
159. カラスハエトリ	<i>Rhene atrata</i>	FMny	ニ, 天, シ, 櫟山
160. ヒメカラスハエトリ	<i>Rhene sp.</i>	F	ニ, 犬2
161. ウススジハエトリ	<i>Yaginumaella striatipes</i>	Fmn	ニ, 櫟山, 犬, 犬2, 桧
162. ムツバハエトリ	<i>Yaginumanis sexdentatus</i>	n	天

おわびと訂正

KISHIDAIA No.69において、以下のような誤字がありましたので、関係者の皆さまにおわび申し上げますとともに、訂正させていただきます。

p.30, 11行目 (空白行含まず)

(誤) 100 m² → (正) 100 cm²

P.30,13行目

(誤) 0.32 個 / 100 m² → (正) 0.32 個 / 100 cm²

p.30,13行目

(誤) 0.71 個 / 100cm² → (正) 0.71 個 / 100 cm²

p.30,14行目

(誤) 0.44 個 / 100 m² → (正) 0.44 個 / 100 cm²

P.34, 表 3

(誤) 基質の面積 (S) cm → (正) 基質の面積 (S) cm²

KISHIDAIA 投稿規定

1. 投稿資格は本会会員とする。ただし共著者には、会員以外の者を含むことが出来る。原稿依頼については、本会会員でなくとも、運営委員会の承認があればよい。
2. 投稿内容は、クモや東京蜘蛛談話会に関する論文、解説、記録、紀行文、感想などとする。
3. 原稿の採否については、運営委員会にて決定する。また、原稿に対して加筆削除・訂正などをお願いすることがある。
4. 頁数は図表を含めて、刷り上がり8頁以内とし、超過頁分は著者負担額となる。(現状、一頁につき2,500円とするが、印刷費の変更等により、金額が変わることがある)
5. 特別な費用を要する印刷は、その実費を著者負担とする。
6. 別刷は原稿の一頁目の上部に、別刷の必要枚数および表紙の有無を赤字で記入する。(別刷の金額は、全額著者負担とする)

原稿作成上の注意

1. 原稿用紙は、白紙に黒字、横書きで書いて下さい。ワープロの場合はA4サイズに40～44字×36行を目安にしてください。
2. 学名などイタリック体を使用する場合にも下線など引かないで下さい。スキャナで読み込むときの妨げになります。
3. 図は製図用インクなどにて、完成したものにしてください。
4. 文章は5行目から書きはじめ、1行目にタイトルを3行目に著者名を書き入れてください。
5. 編集作業簡略化のため、パソコン、ワープロの原稿と共に、フロッピーをお送りくださいますと助かります。電子メールでも可です。

(1997年7月31日改訂)

編集後記

お待たせしました。ようやく KISHIDAIA No.71 が完成しました。

編集担当の事情により、発行が大幅に遅れましたことをおわび申し上げます。

改めて KISHIDAIA の第 1 号の発行日を確認してみると 1969 年 1 月となっており、なんと 28 年の歴史をもつ会誌の編集を担当しているのだという重みを感じています。

幸い、次号からの編集は、池田博明さんの助力を得られることとなり、今までの立ち遅れをなんとかばん回する見通しが立ってきましたので、これからもどんどん原稿をお送りくださいますよう、お願い申し上げます。

なお、これに伴い、原稿の送付先も池田さん宛に変更させていただきます。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。(木村・記)

1996・1997 年度運営委員会

池田 博明・小野 展嗣・木村 知之・久保田 克哉・笹岡 文雄・高橋 登
高橋 祐子・谷川 明男・萩本 房枝・平松 毅久・安田 明雄

会 長：萱嶋 泉 191 東京都日野市多摩平 7-15-9

本 部：小野 展嗣 169 東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館動物研究部

会誌編集：木村 知之 215 神奈川県川崎市麻生区東百合ヶ丘 4-38-12

(送付先) 池田 博明 258 神奈川県足柄上郡大井町金手 1099

通信編集：笹岡 文雄 170 東京都豊島区北大塚 3-12-21

事務局：平松 毅久 350 埼玉県川越市上戸 91-3 瀬尾荘 202

会 計：安田 明雄 231 神奈川県横浜市中区元町 5-219

郵便振替：00170-8-74885 東京蜘蛛談話会 (年会費 一般 2,800 円 学生 2,000 円)

会計監査：笠原 喜久雄・鈴木 成生

KISHIDAIA No.71 1997 年 7 月 31 日印刷 編集者 木村 知之

1997 年 7 月 31 日発行 発行者 萱嶋 泉

発行所 東京蜘蛛談話会

東京都新宿区百人町 3-23-1 国立科学博物館動物研究部 小野 展嗣方

印刷 有限会社 相模プロセス

〒229 神奈川県相模原市淵野辺 2-15-27

K I S H I D A I A
 Bulletin of Tokyo Spider Study Group
 No. 71 Jul. 1997

— 目 次 —

宮下、和喜：ネコハエトリの幼体発育と卵のう産出	1
加藤むつみ：飼育下のハイロゴケグモの、脱皮に関する報告	5
池田 博明：クモ観察会指導マニュアル	7
長島 充：千葉県佐倉市で記録された真正クモ類	13

DLA GLINES

谷川 明男：アカイソウロウダモの採集記録追加	21
三川 英之・石渡 天輔・坂田 大輔・林 賢太郎（関東学院中学校2年）・新海 明 ：オニダモの網内で餌盗みしていたアシナガグモの観察	21
泉 宏子：シロオビトリノランダムシの交接	23
谷川 明男：アカオビゴケグモの採集・観察・種感	23
谷川 明男：ホシスジオニグモの変わったラッピング	25
谷川 明男：寒い夜のイエオニダモ？	25
谷川 明男：緑のハダモも子育てをする？	25
平松 毅久：ジョロウグモ幼体の網にいたワキグロサツマノミダマシの亜成体	26
平松 毅久：腹部背面に褐色斑紋をもつワキグロサツマノミダマシ	26
伴 満：河原のハエトリグモの産卵	27
伴 満：ムツトゲイセキグモの雄を採集	27

東京蜘蛛談話会 1993年度観察採集会報告

木村 知之：高橋 祐子：飯山観音のクモ	29
---------------------------	----

東京蜘蛛談話会 1994年度合宿報告

池田 博明：丹沢のクモ（松田町寄、赤野市三股・大倉、松洞丸）	37
--------------------------------------	----

おわびと訂正	45
--------------	----

KISHIDAIA 投稿規定・原稿作成上の注意	45
-------------------------------	----

編集後記	46
------------	----